

町民向けアンケート分析

| | |
|------------------|-----|
| 1.人口ビジョンについて | 2P |
| 2.町民向けアンケート | 12P |
| 3.若年層向けアンケート | 23P |
| 4.転入者向けアンケート | 35P |
| 5.町内外の比較 | 43P |
| 6.世代別分析（30代～60代） | 46P |

**1.人口ビジョンについて
～岩内町がもし100人の村だったら**

最初に

岩内町には13,583人が住んでいますが、(平成27年度時点)

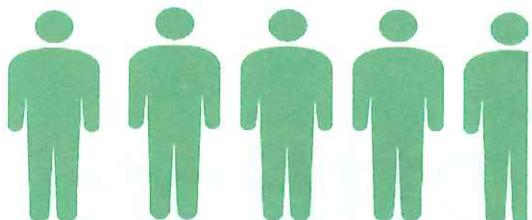
岩内町がもし100人の村だったら

町にはいったいどんな人たちが暮らしているのでしょうか。

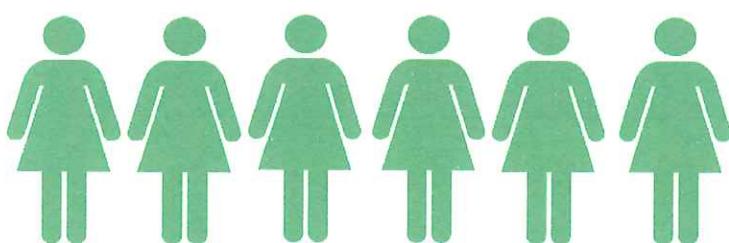
3

岩内町に住んでいる100人のうち

47人は男性、



53人は女性です。

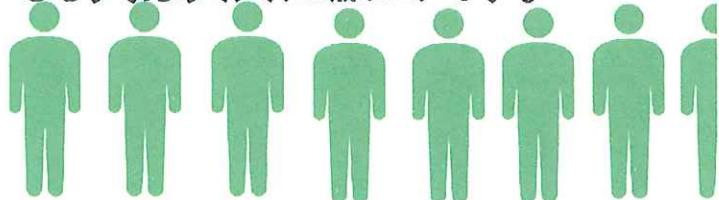


4

15人はこども(20歳未満)で、



85人は大人(20歳以上)です。



そのうち60歳以上のは41人です。

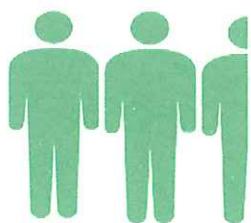


5

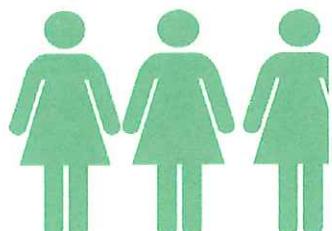
もし岩内町が100人の村だとしたら

2040年には54人にまで減ってしまうと予想されています。

25人が男性、



29人が女性です。



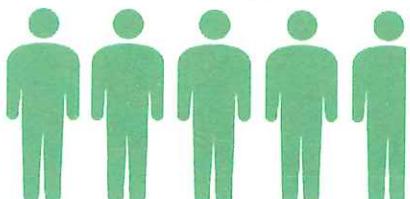
6

54人のうち

5人がこども(20歳未満)で



49人が大人(20歳以上)です。



そのうち60歳以上のは**28人**です。



7

この人口減少を少しでも食い止めようと、
岩内町は目標を掲げています。

現在の岩内町を**100人の村**だとすると

**「2040年に岩内町の人口を81人に、
2060年には69人に。」**

この目標を実現するために、
「雇用」・「産業」・「生活」
の面で改善すべき課題を挙げています。

8

「雇用」：人口減少下においても堅実な雇用の確保

- ・これまでではサービス業などで掘り起こしが行なわれてきたが、今後は第一次産業などの掘り起しなども視野へ(6次産業化など)
- ・地域全体でみると雇用自体は足りないものの、業種や職種別にみるとばらつきが今より顕著になることが予想されることから、「適正化」を図る必要あり

9

産業：商業の見直しと観光の活性化

- ・様々な産業で活性化方策を検討する必要あり
- ・特に商業面でマイナスの影響が大きくなる懸念大

10

生活：子育てや教育などの充実

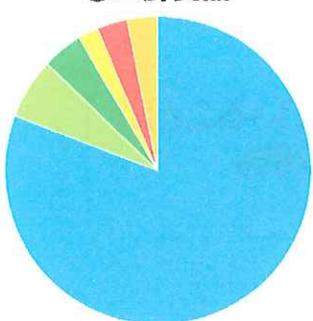
- ・合計特殊出生率を引き上げるためには、出産はもちろん育児や子育て、教育、就職、結婚などライフステージごとにきめ細かな対応や対策が不可欠
- ・また、今後の人口減少下においては、現行の公共施設の数や機能は余剰化していくことから、町民が求める生活・行政サービス水準をしっかりと維持できる体制整備も必要

※合計特殊出生率……1人の女性が生涯に生む子供の平均数を示す指標。

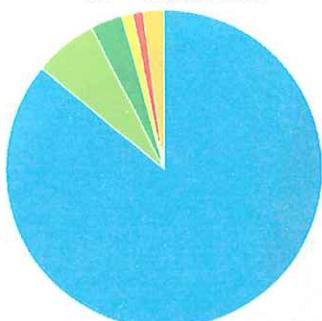
2.町民向けアンケート

【Q. 主な買い物先は?】

①生鮮食品



②一般食料品



■ 岩内派

■ 共和派

■ 俱知安派

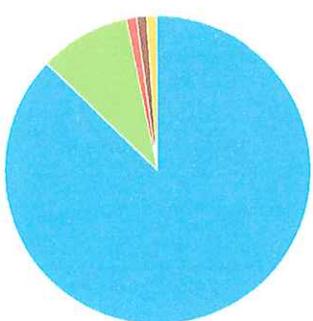
■ 余市派

■ 小樽派

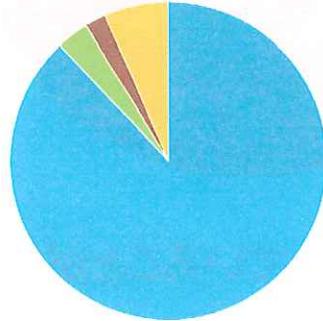
■ 札幌派

■ 宅配・通販派

③日用雑貨



④医薬品・化粧品

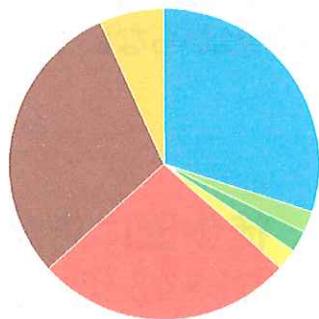


→日用品は岩内町で済ませる人がほとんどである。

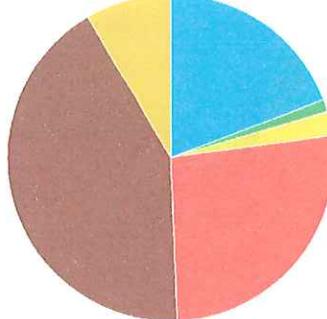
13

【Q. 主な買い物先は?】

⑤衣料品



⑥服飾品、アクセサリー



■ 岩内派

■ 共和派

■ 俱知安派

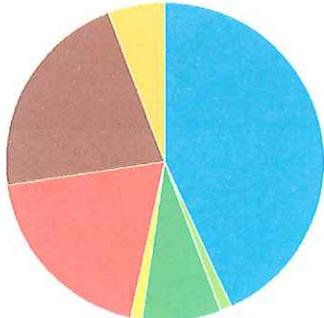
■ 余市派

■ 小樽派

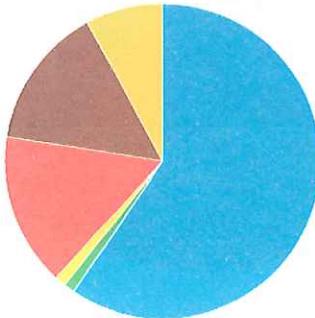
■ 札幌派

■ 宅配・通販派

⑦家電



⑧文具・書籍

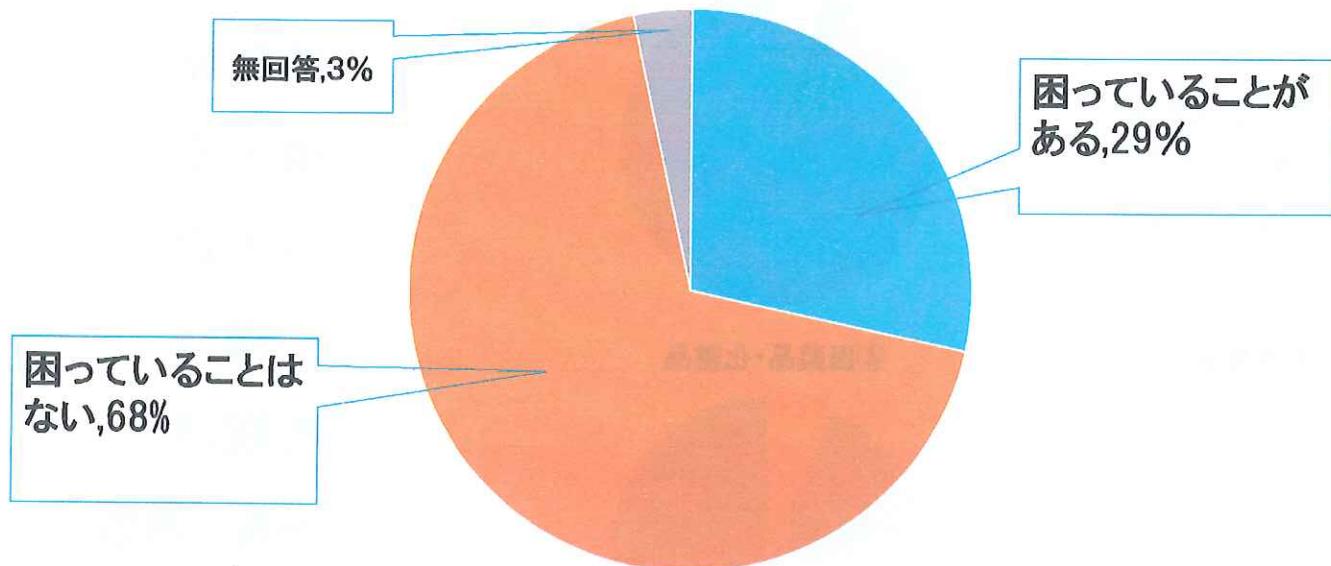


→岩内町外での買い物がほとんどである。

14

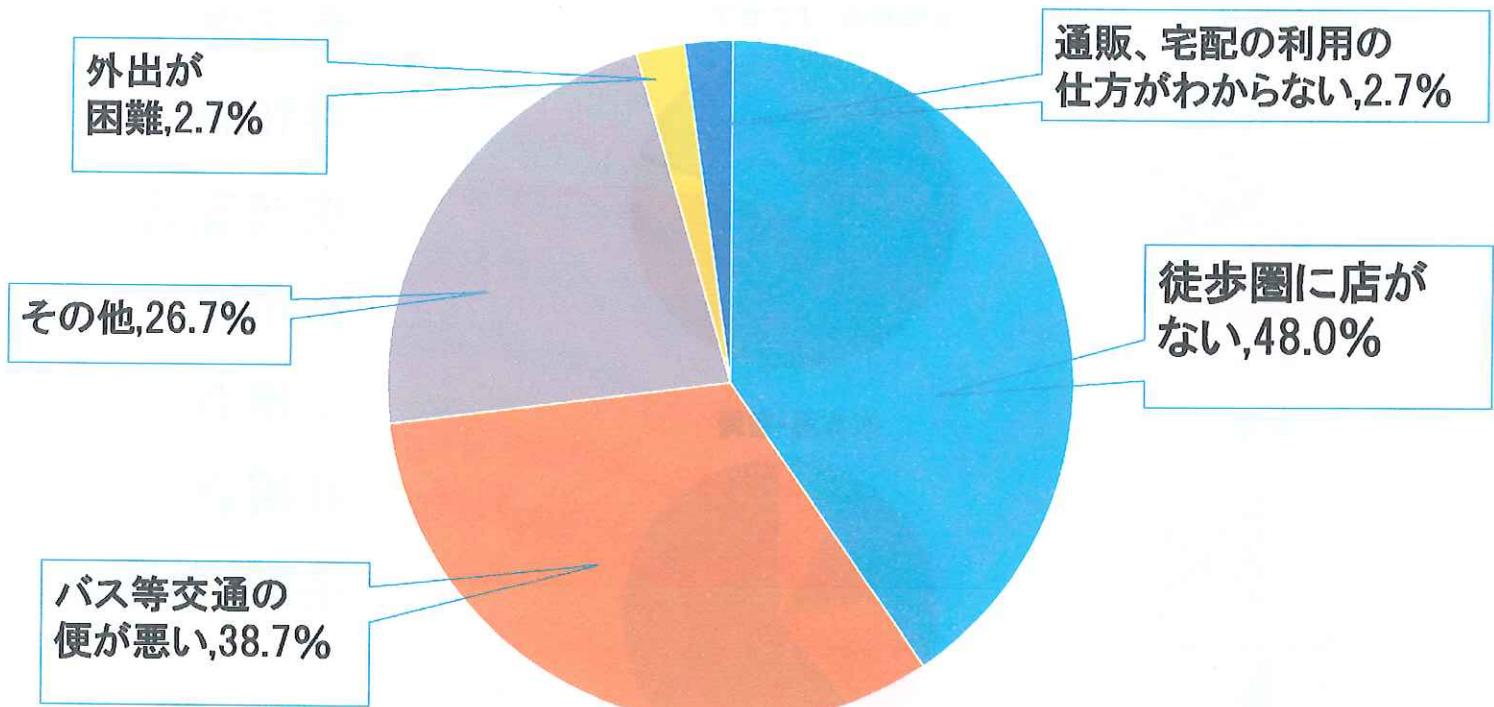
買い物上の問題

Q 日常の買い物において困っていることはありますか？



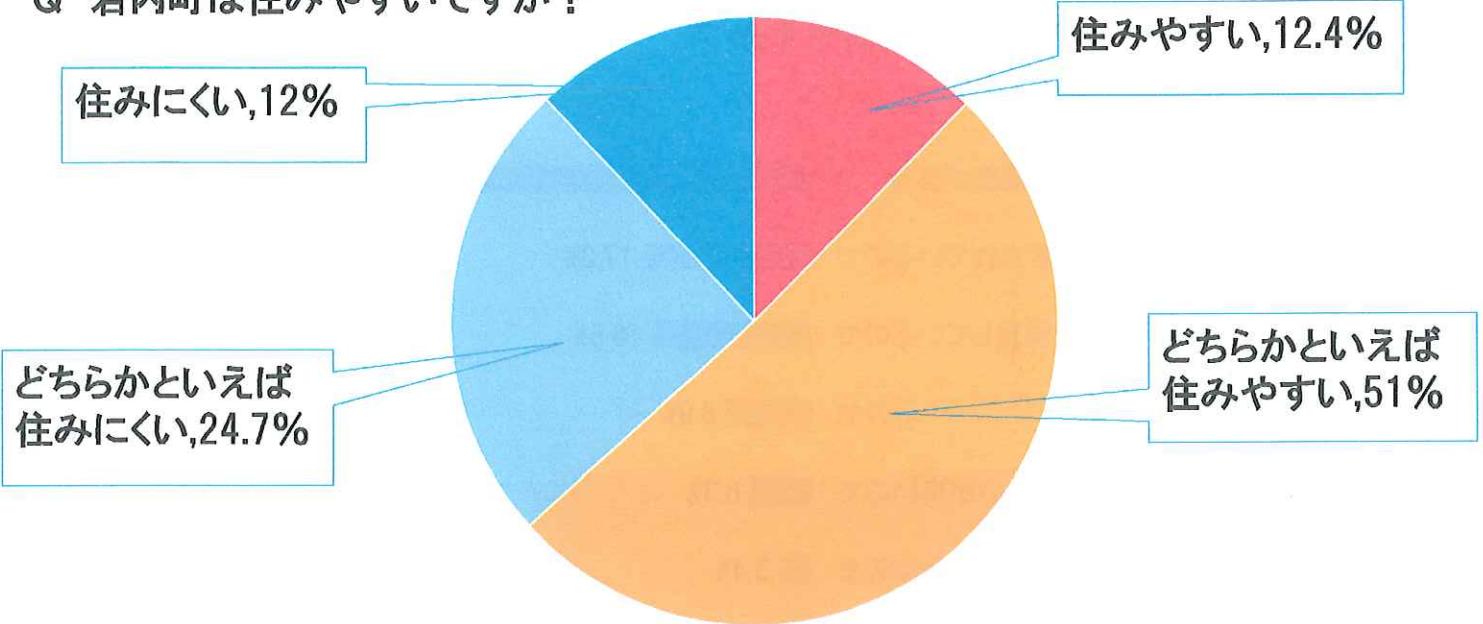
⇒約3割の人が困っていることがあると回答

買い物上の問題の理由



岩内町の住みやすさ

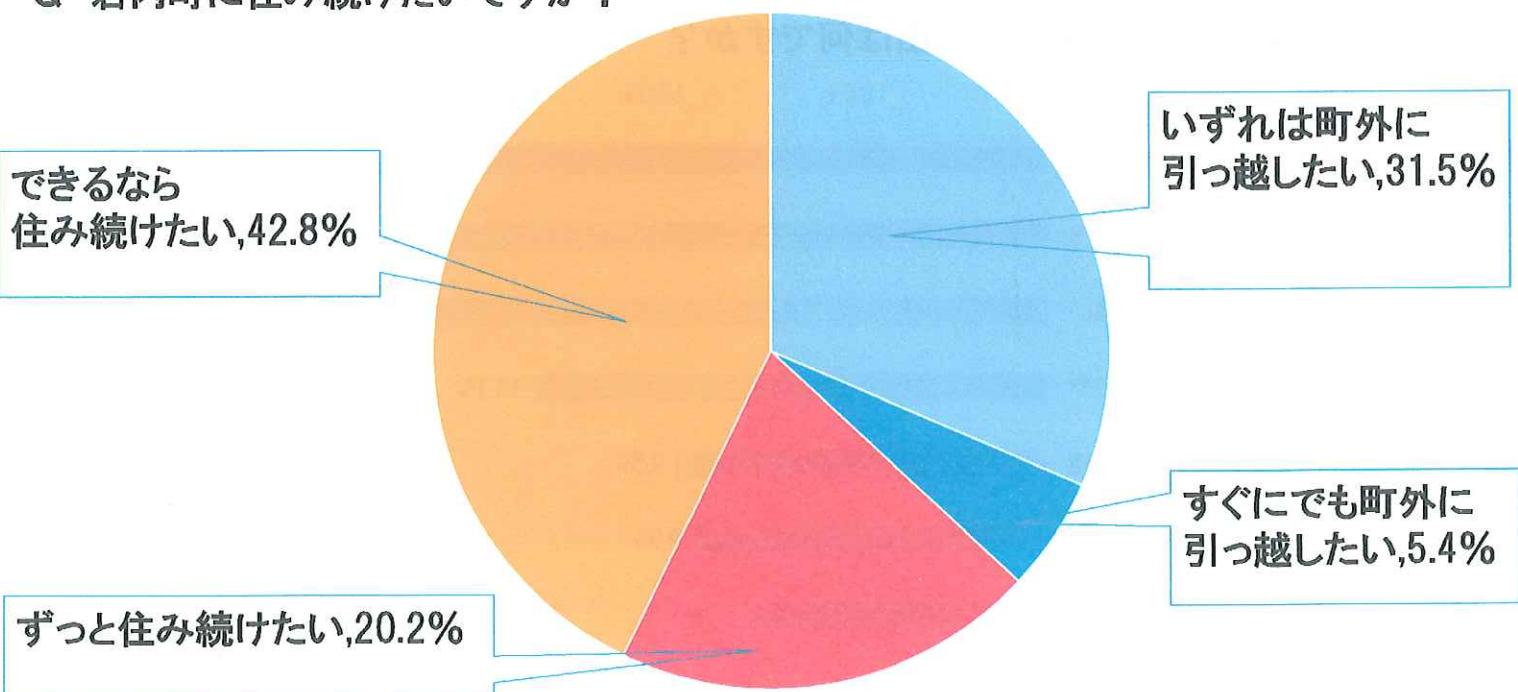
Q 岩内町は住みやすいですか？



⇒「どちらかといえば住みやすい」と「住みやすい」を合わせると
約6割が住みやすさを感じている

居住継続の意向

Q 岩内町に住み続けたいですか？



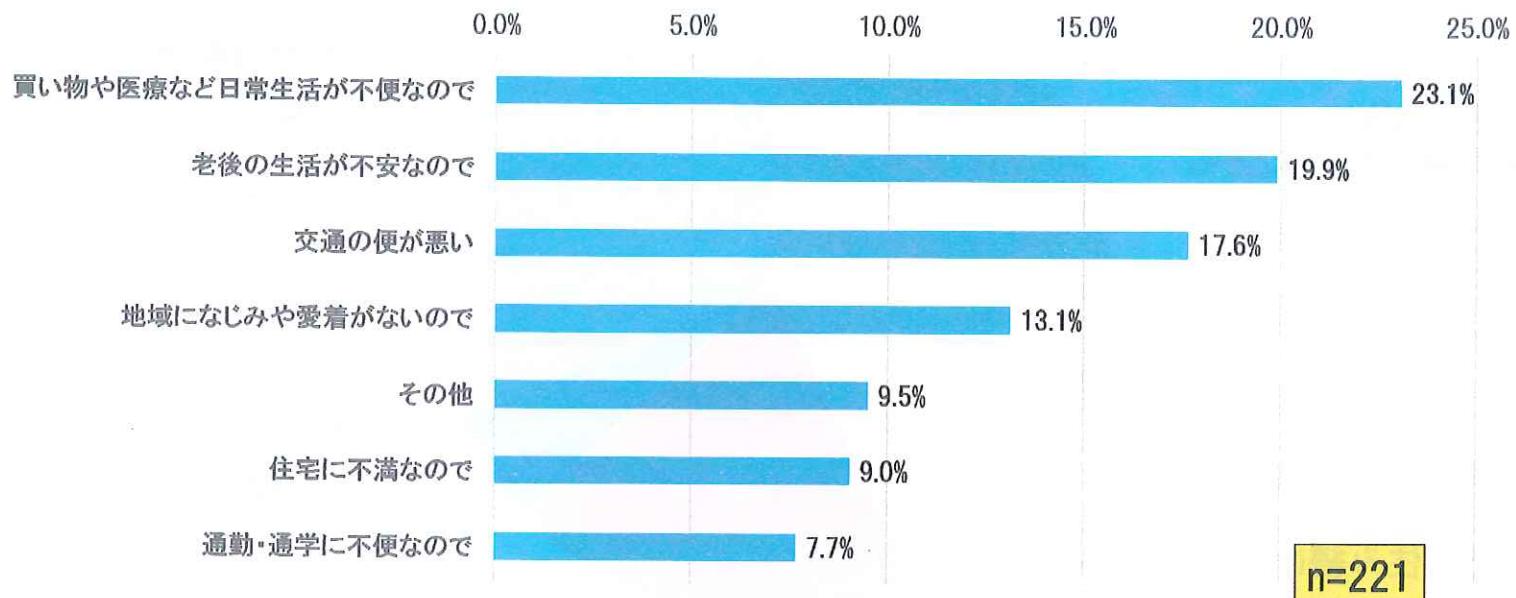
住み続けたい理由

Q 岩内町に住み続けたい理由は何ですか？



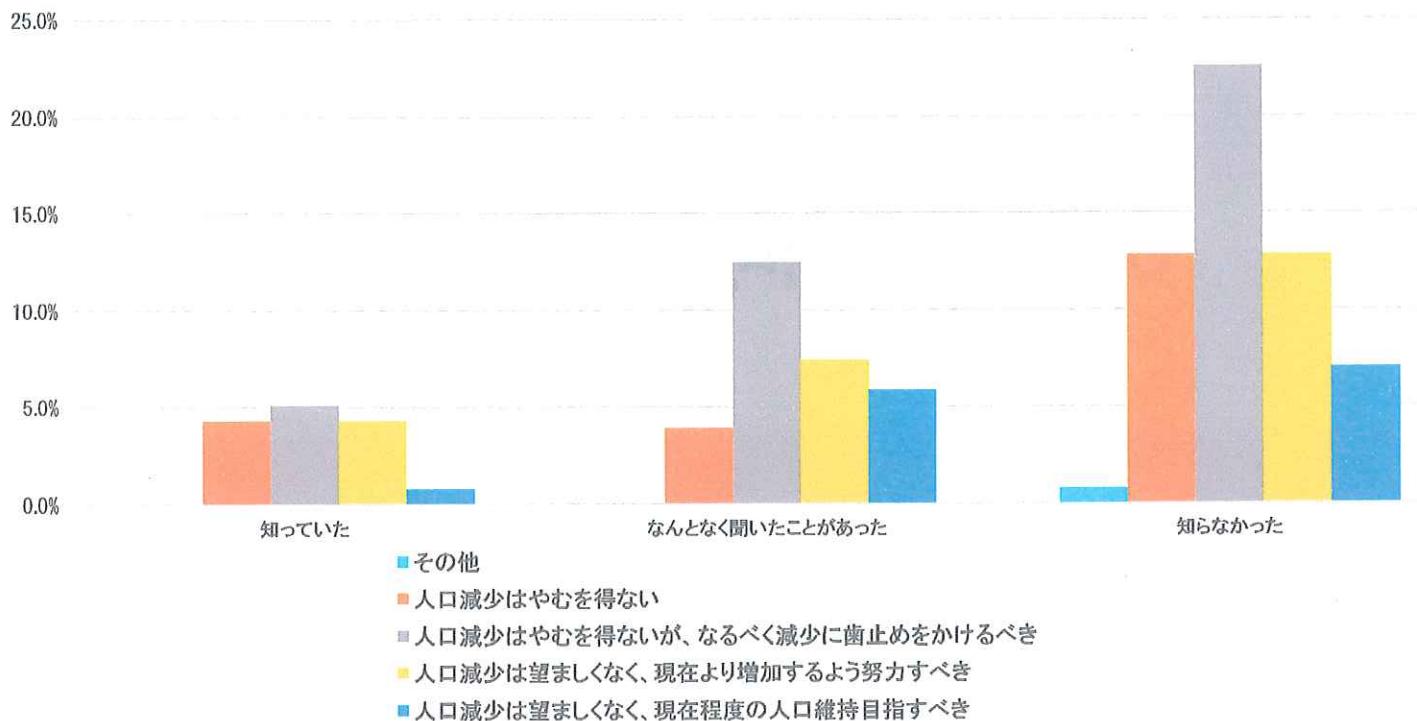
引っ越ししたい理由

Q 岩内町外へ引っ越ししたい理由は何ですか？



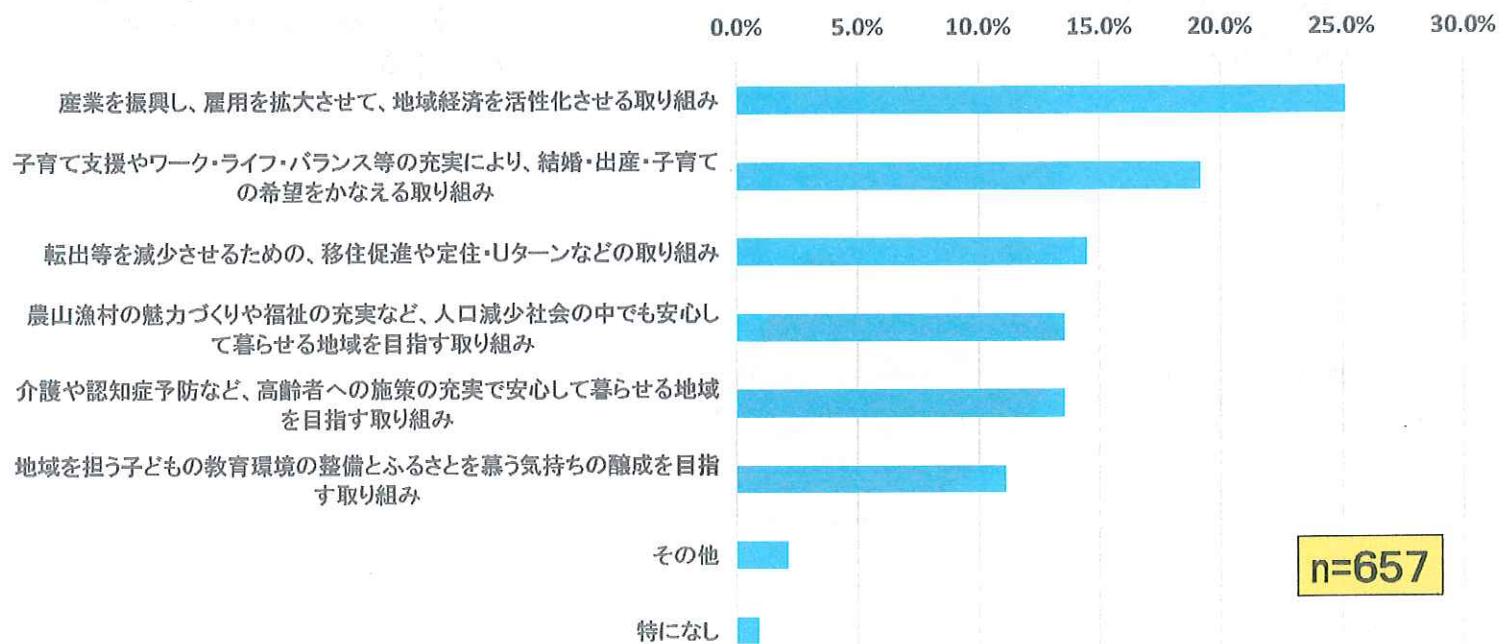
人口の減少の意識について 全体

Q 岩内町の人口減少について、あなたの考えに最も近いものを選んでください。



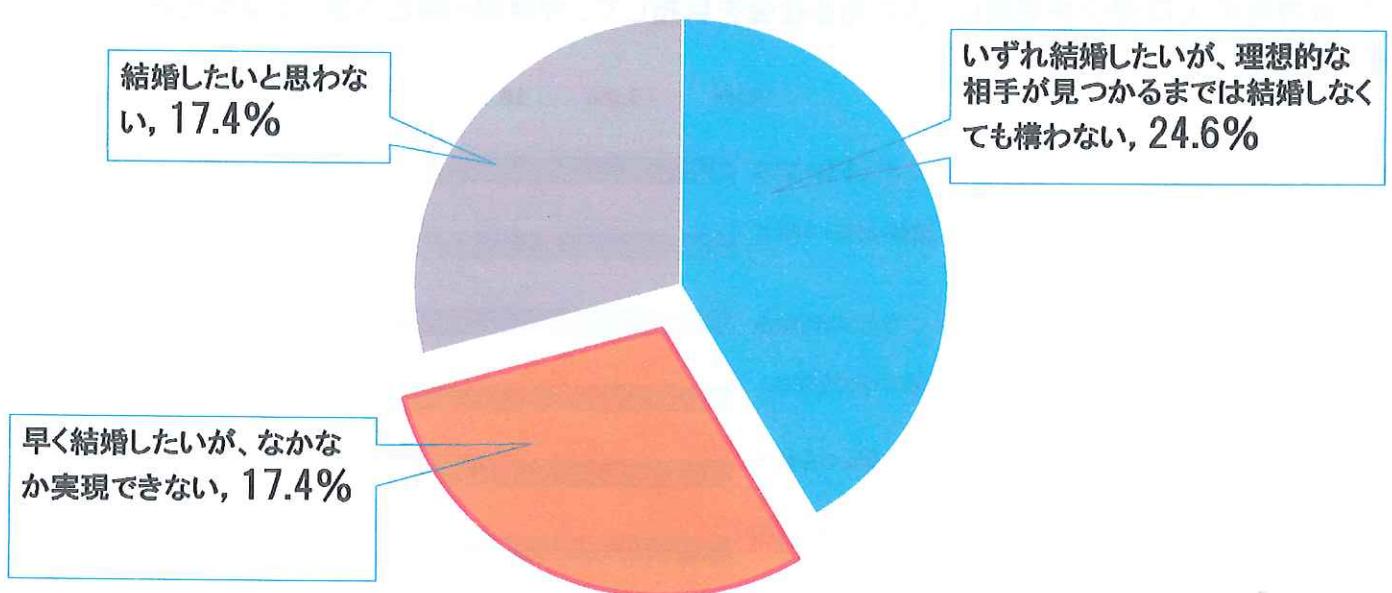
今後取り組むべきこと

Q 岩内町の人口減少を克服し、活力ある社会を目指して、今後取り組むべきことは何だと思いますか？



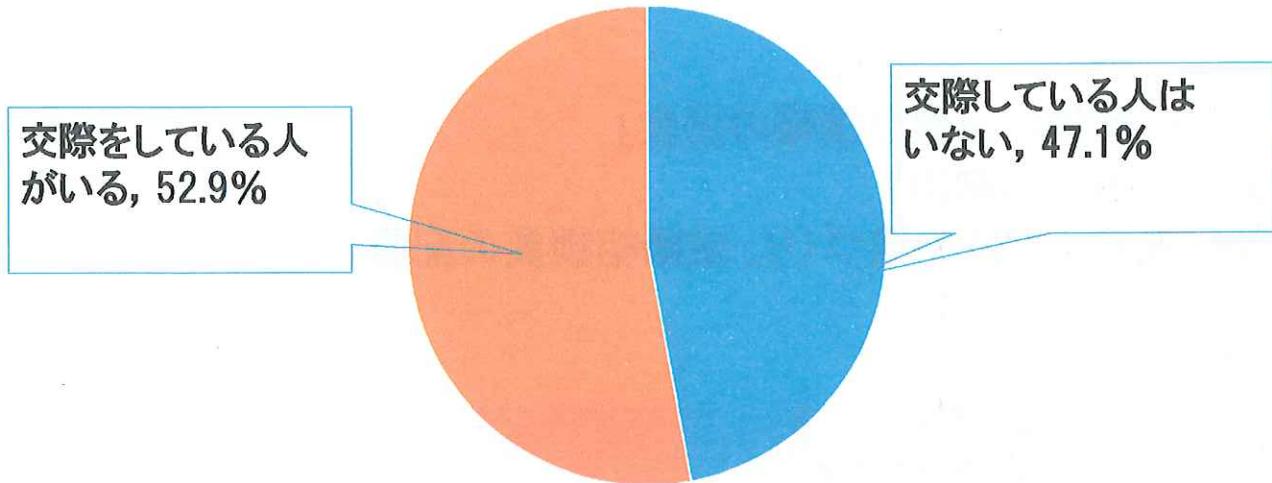
3.若年層向けアンケート

結婚への意向と交際状況、婚活状況について



その中でも…

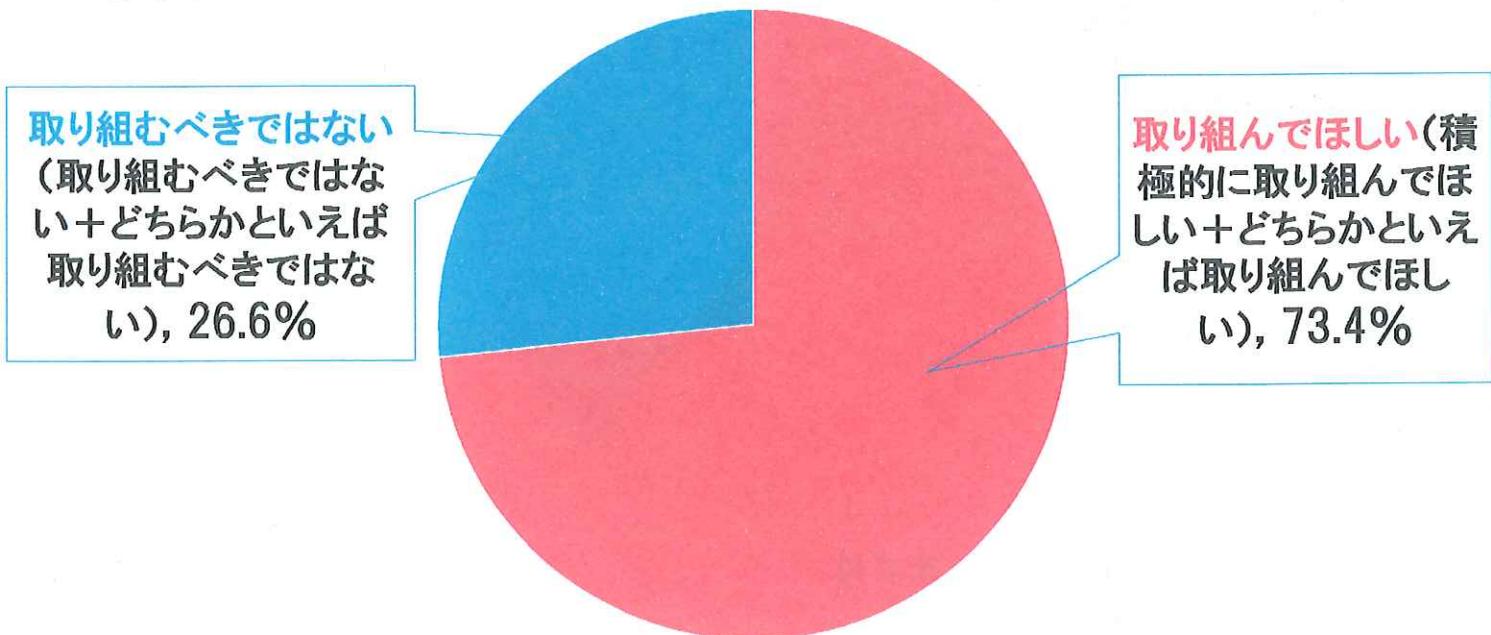
「早く結婚したいが、なかなか実現できない」という人の交際状況は？



⇒「早く結婚したいが、なかなか実現できない」人のうち「交際している人がいない」という割合が6割と高い。婚活を望む声もあることから、何らかの結婚への支援等が必要だと考えられる。

行政による結婚支援方策の必要性、その内容

行政が、結婚を支援する方策に取り組むことについてどのように思いますか？



「交際している人はいない」という人のうち、

「行政が、結婚を支援する方策に取り組むことについてどのように思いますか」という設問に「積極的に取り組んでほしい」または「どちらかといえば取り組んでほしい」と答えた人で……

- ・「出会いや結婚に必要な情報の提供」
- ・「出会いの機会の創出」
- ・「結婚に関する相談の場づくり、結婚相談員の配置」

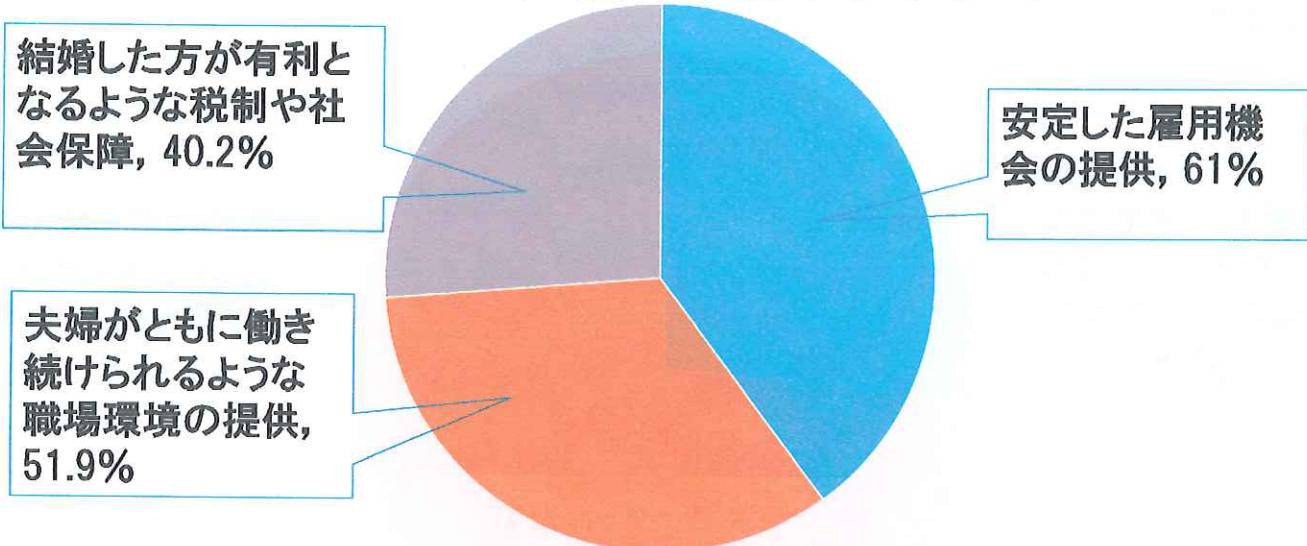
を望む人は、

112人中80人

⇒独身の人(かつ行政の支援を行ってほしいと思う人)の**71%**が何らかの婚活の支援を望んでいる

他にも……

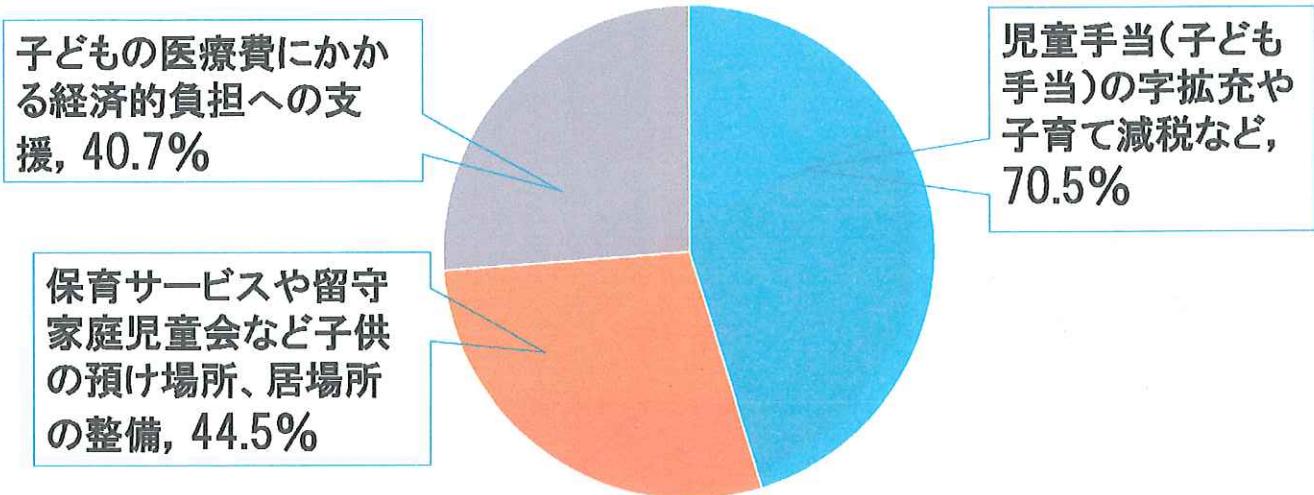
どのような取り組みが必要だと感じますか？



⇒結婚や出産のためには、まずは**雇用の安定化、職場環境の充実等**により、生活が安定することが大事

さらに……

子どもをもちたい気持ちになるための行政の支援方策の内容は？

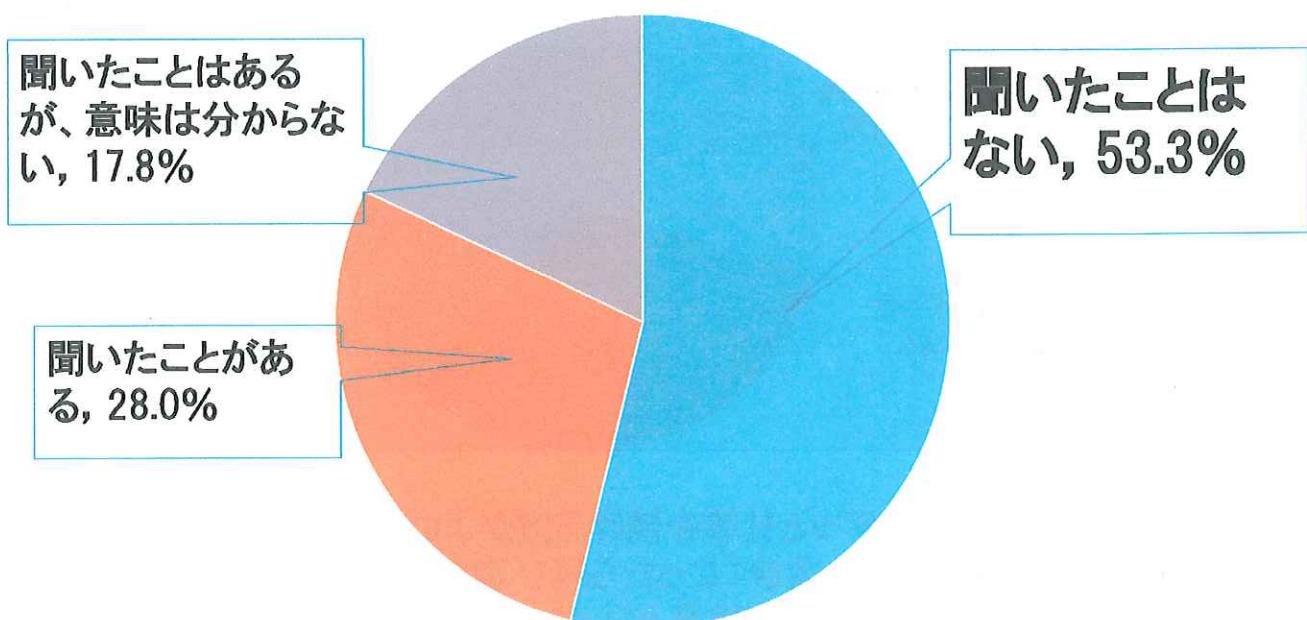


⇒「行政の少子化対策促進により子どもが欲しい」、「もう一人子どもが欲しいという気持ちになると思う」との回答は約7割。

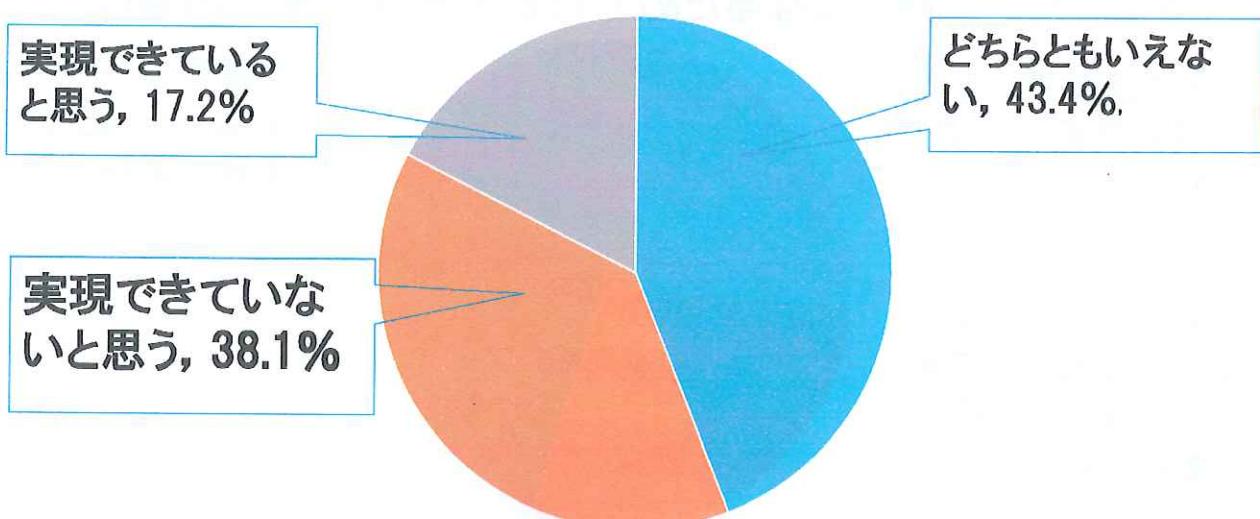
このような支援がされると、「子どもが欲しい」「もう一人子どもが欲しい」と思う人が増える。

ワークライフバランスの認知度

ワークライフバランスという言葉を知っていますか？



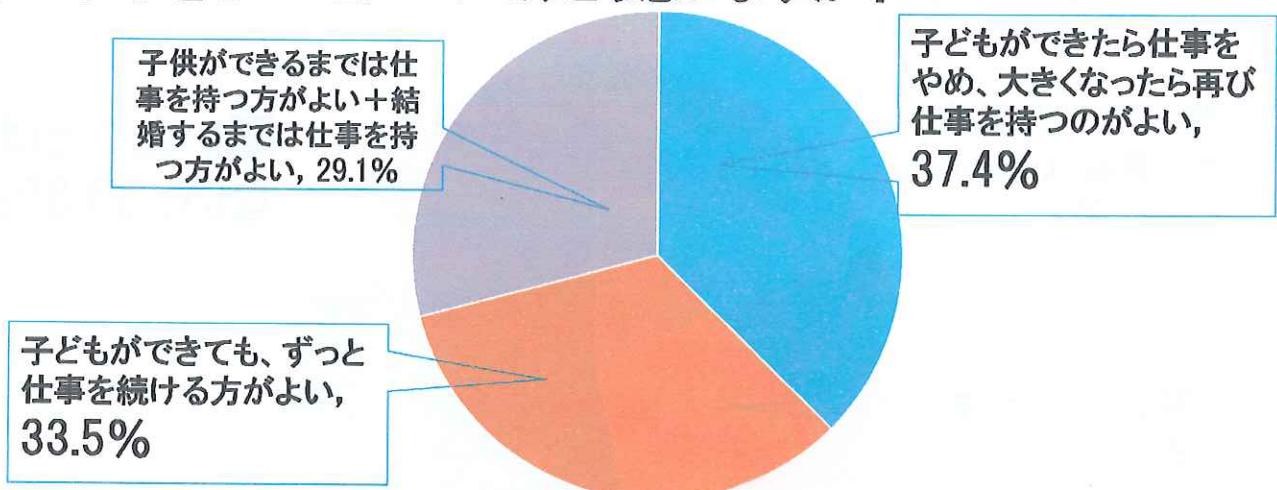
ワークライフバランスの実現度は？



⇒やりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たす一方で、子育てや介護の時間、家庭、地域、自己啓発等にかかる個人の時間を持ち、豊かな生活ができるよう、職場だけではなく地域全体で仕事と生活の双方の実現を目指していく必要がある。

女性の就労に関する考え方

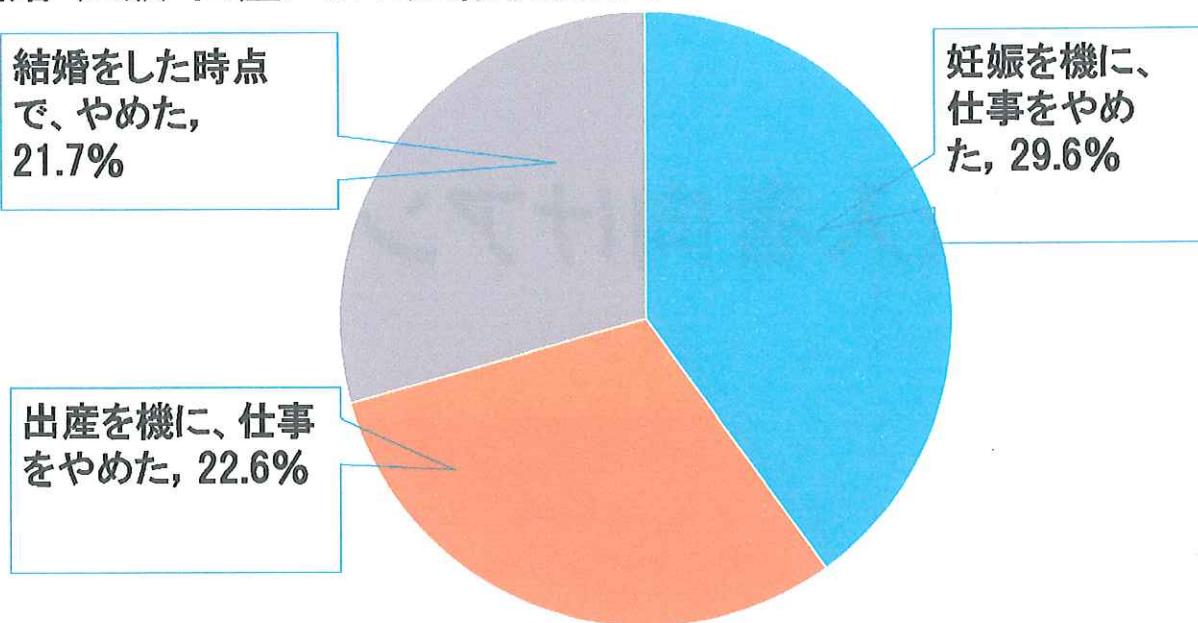
女性が仕事をもつことについて、どう思いますか？



⇒「子どもができるまでも、ずっと仕事を続ける方がよい」という就業支持率が、「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」と考える「一時中断・再就職」支持を下回る結果となった。

実際に……

結婚・妊娠・出産による退職状況は？



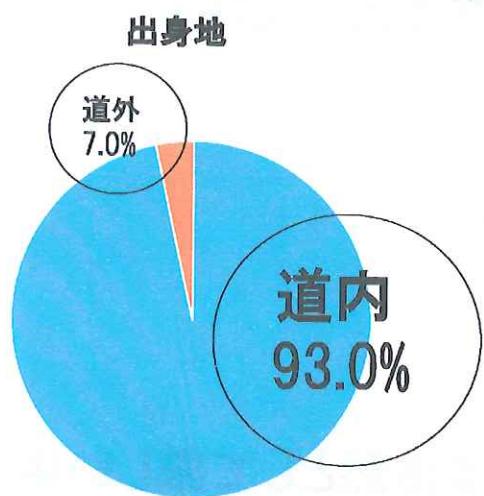
「子どもができても、ずっと仕事を続ける方がよい」と答えた人(33.5%)は……

結婚・妊娠・出産を機に仕事をやめた人が
79人中49人(約62%)

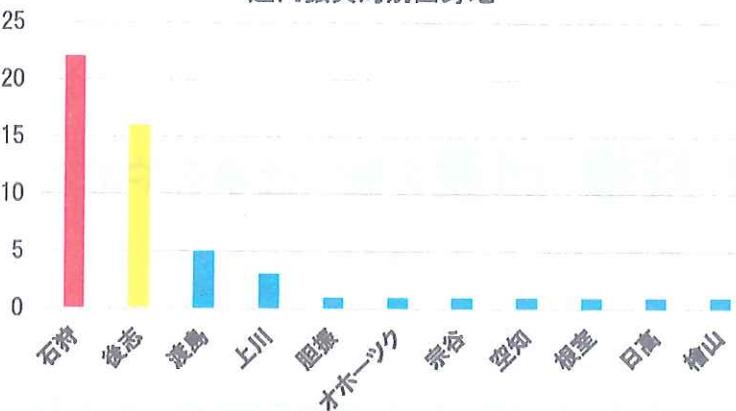
⇒女性の就業継続や再就職を巡る状況は依然として厳しい中で、結婚や出産を機に離職する女性は以前と変わらず多いため、**男女に問わらず働きやすい職場環境づくりの必要性は一層高まっていく。**

4. 転入者向けアンケート

転入前居住地

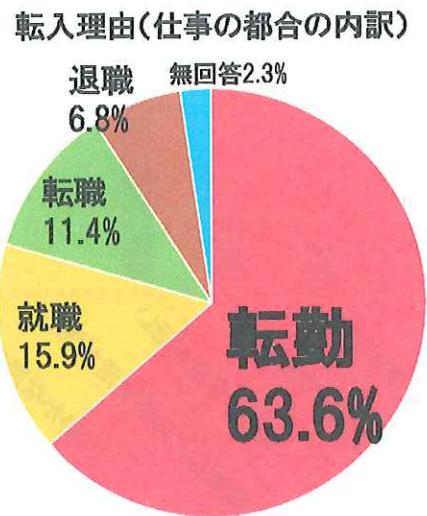
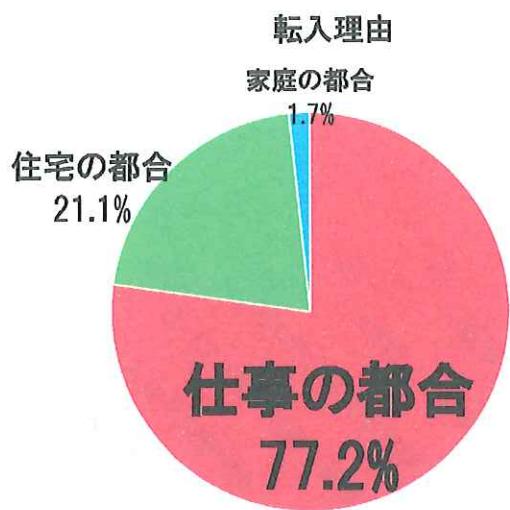


道内振興局別出身地



転入前出身地は道内が圧倒的に多く、その中でも石狩、後志地方が多い。石狩は全体の38.6%で、後志は28.1%

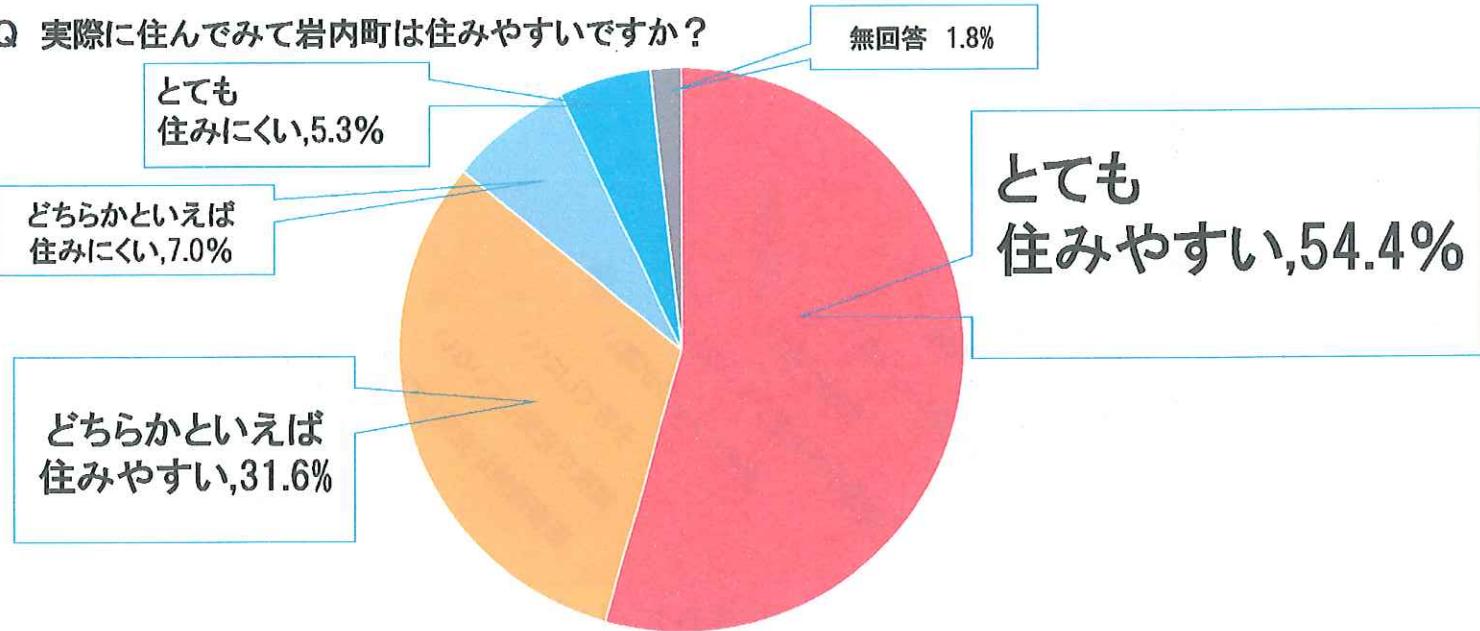
転入理由



圧倒的に仕事の理由による転入が多く、全体の約8割を占めている
また、仕事の都合のうち転勤が最多く、次に就職、転職と続いている。

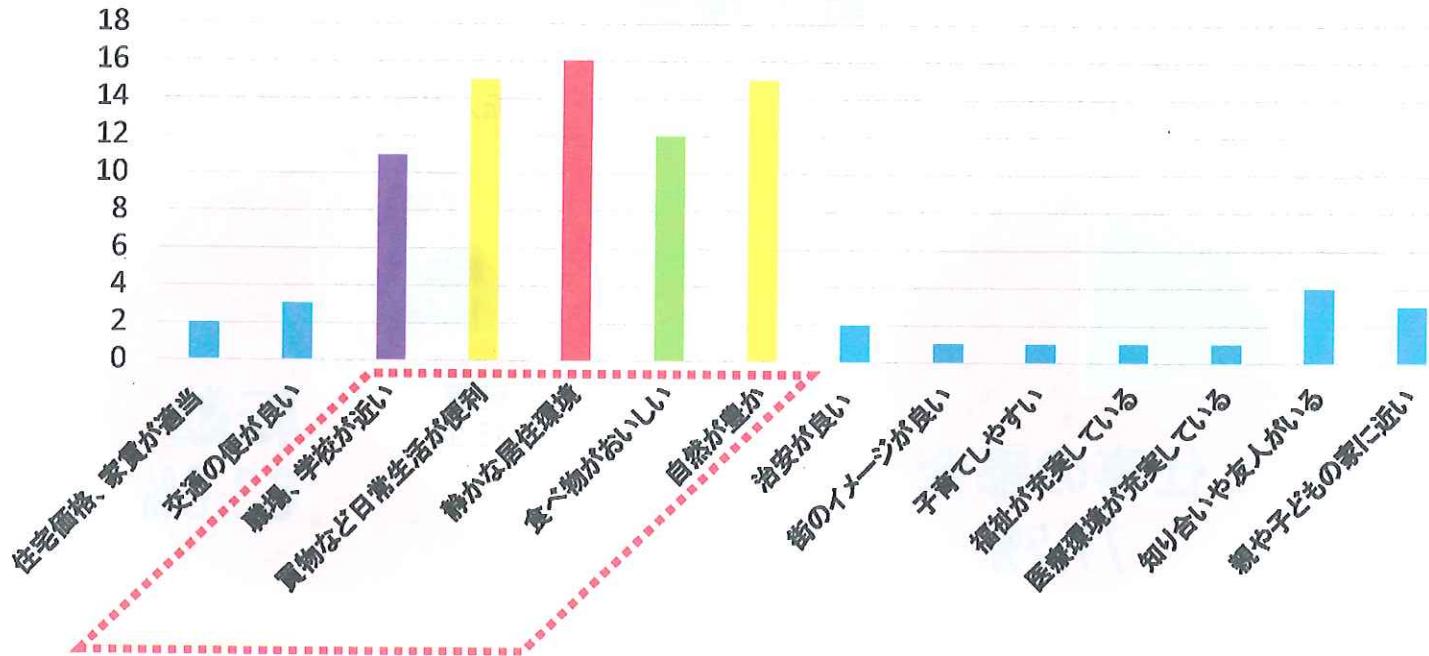
岩内町の住みやすさ

Q 実際に住んでみて岩内町は住みやすいですか？



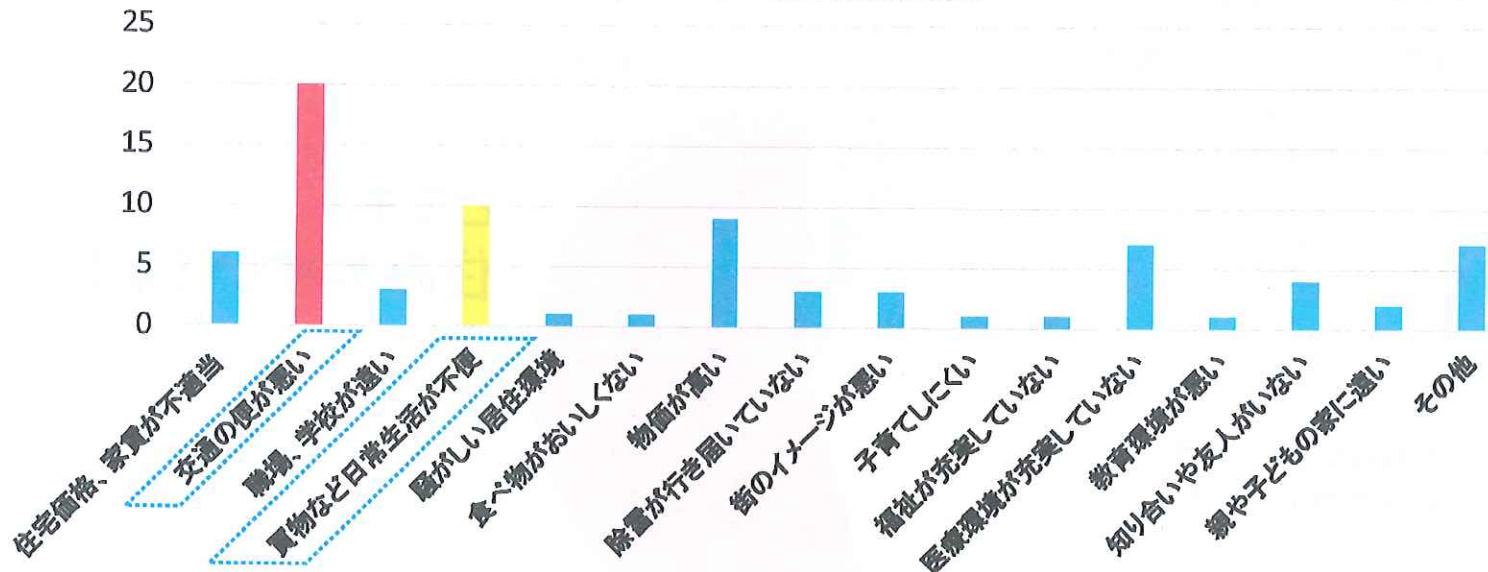
→「とても住みやすい」、「どちらかといえば住みやすい」を合わせて9割近く存在。
「とても住みやすい」と答えた人だけでも半数以上存在している。

住みやすい理由(複数回答)



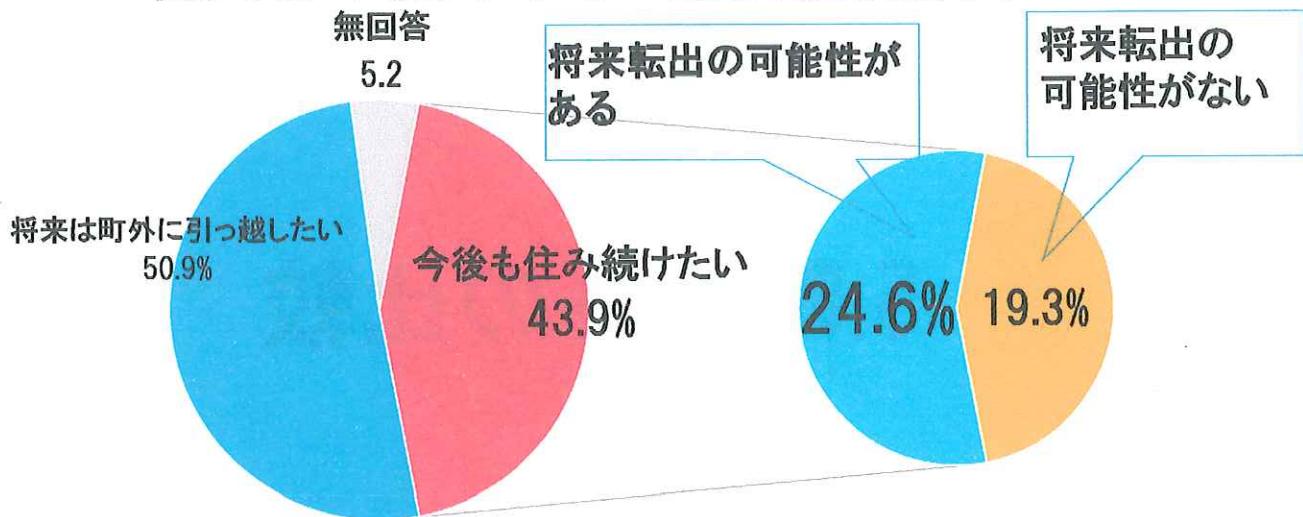
⇒日常生活が便利なことや、居住環境、食や自然を魅力と感じている人が多い。

住みにくい理由(複数回答)



⇒交通の便の悪さや日常生活の不便さが住みにくい理由として目立つ。
 「住宅価格、家賃が不適当」(6人)、「物価が高い」(9人)、「医療環境が充実していない」(7人)といった声も。

転入者の岩内町での居住継続意向



将来は町外に引っ越したいと考えている方は51%。今後も住み続けたいと考えているが、将来的に転出の可能性がある方は25%、合わせると約75%存在する。
→社会的要因による人口減少の大きな要因と考えられる。

岩内町を住みやすいまちにする意見等

【転入促進に向けての取り組み】

①転入によるメリットの表示

・他地域では、転入者には古民家再生にて定額入居、農地まで提供してくれて農民からボランティアの指導があったり、保育所もスムーズに入園できる。ある市では高校卒業まで無料、子どもを育てる環境が整っている。

この町に独自性を持たせるべきだと思う。他の町村とは違い、岩内に住むメリットがないかぎり、住民の流出は止まらない。

②住宅情報の充実、自宅事情の改善

・住宅が少ないし、探すのが難しい。**不動産がないため大変だった。**
・アパートの家賃が都会並みに高い。

③町の認知度向上

・温泉も食事も景色も素敵で、積丹・ニセコ方面・小樽方面へも行きやすいのに、観光客が通りぬけ、岩内を知らない人も多い。宣伝して、**もっと知ってほしい**。

5.町内外の比較

| | 町内のみ | 町内・首都圏共通 | 首都圏のみ |
|----|--|---|--|
| 強み | <ul style="list-style-type: none">・仕事の都合(転勤)による転入者が多い。・「生鮮食料品、一般食料品、日用雑貨、医薬品・化粧品」はほとんど町内で手に入れることができる。・静かな居住環境。 | <ul style="list-style-type: none">・自然が豊か。・美味しい食、安全な食がある。 | <ul style="list-style-type: none">・土地柄、人柄がよい。・自分の趣味が楽しめる。・「生活費が安い」 |
| 弱み | <ul style="list-style-type: none">・徒歩圏に店がない。・交通の便が悪い。・仕事の都合で将来町外に出でいく可能性が高い。・物価が高い | <ul style="list-style-type: none">・医療環境が充実していない。 | <ul style="list-style-type: none">・認知度が低い。・「冬の寒さ、積雪」に不安がある。 |

- ・自然環境による強みは移住先候補の理由として求められる可能性がある。
- ・医療環境が充実していないことは移住を考える上での不安要素になる。

結論

- ・首都圏在住者から見たとき、知名度の低さが大きなデメリットになる。
- ・しかし岩内を訪れた人にわかる良さも存在する。
- ・環境の良さと美味しい食は岩内の強みであり
首都圏在住者が移住を考える上でのメリットになる。
- ・首都圏在住者から見て移住するうえで「医療環境、医療レベル」に不安を感じ、
町民から見て「医療環境、医療レベル」が充実していないと感じている。
- ・岩内町民から見て「物価が高い」(転入者向けアンケートより)と回答していたが
首都圏在住者から見たら「物価が安い(*)」。
- ・首都圏から見て岩内(北海道全体)は冬が寒く、除雪が大変なイメージがある。
しかし一度訪れた人には首都圏の暮らしに比べてより良い生活に感じる傾向がある
と思われる。

(*)総務省統計局の都道府県の物価水準の地域差指数(総合指標)によると
1位東京(105.2)、2位神奈川(103.9)に対して北海道は13位(99.2)

6. 世代別分析(30代～60代)

■今回のみ

A. 買い物・病院について

■前回との比較(コホート分析)

B. 住みやすさ(※1)

C. 居住継続の意向(※2)

D. 今後取り組むべきこと

※1 住みやすさについて

〈今回〉問2-1. 岩内町は住みやすいですか？

- ①住みやすい
- ②どちらかといえば住みやすい
- ③どちらかといえば住みにくい
- ④住みにくい

〈前回〉問7. あなたにとって岩内町は『住み良いまち』ですか？

- ①住み良い
- ②どちらかといえば住み良い
- ③どちらともいえない
- ④どちらかといえば住みにくい
- ⑤住みにくい

⇒〈前回〉の「⑤どちらともいえない」を、半分ずつ「②どちらかといえば住み良い」「④どちらかといえば住みにくい」へと按分して分析。

47

※2 居住継続の意向について

〈今回〉問2-2. 岩内町に住み続けたいですか？

- ①ずっと住み続けたい
- ②できるなら住み続けたい
- ③いずれは町外に引っ越したい
- ④すぐにでも町外に引っ越したい

〈前回〉問10. 岩内町に今後も住み続けたいと思いますか？

- ①住みつづけたい
- ②住みつづけたくない
- ③わからない

⇒単純に比較できないため個別に分析。

48

【コーホート分析とは？】

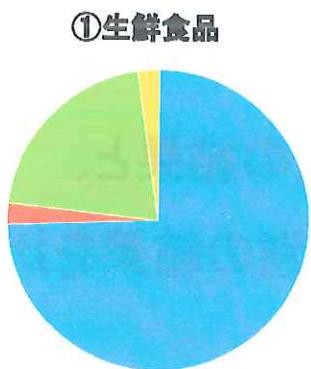
前回(2007年8月実施)のアンケートにおける年代別の結果と、
今回(2015年11月実施)のアンケートにおける年代別の結果を比較。
ライフステージの移行に伴う価値観の変化を分析。

例)今回の50代グループは前回の
40代グループ(正確には42~51歳)と同じとする。
→どちらも1956年~1965年生まれの人を想定。

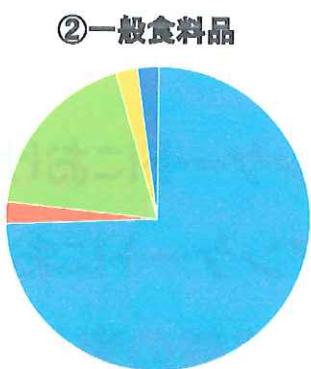
49

30代 A.買い物・病院(今回のみ)

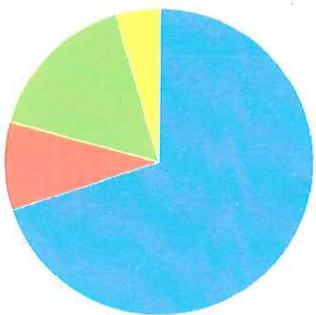
30代 A.買い物・病院(1)



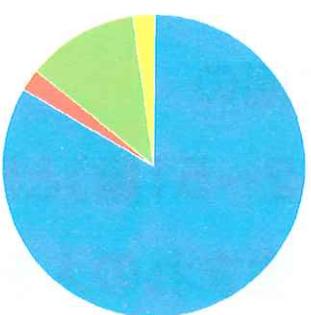
【Q. 主な買い物先は?】



③日用雑貨



④医薬品・化粧品

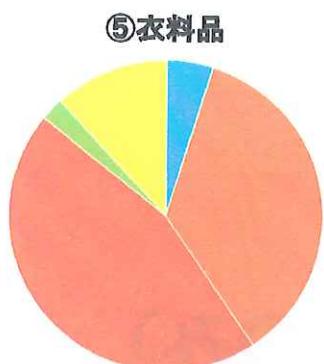


- 岩内派
- 共和派
- 俱知安派
- 余市派
- 小樽派
- 札幌派
- 宅配・通販派

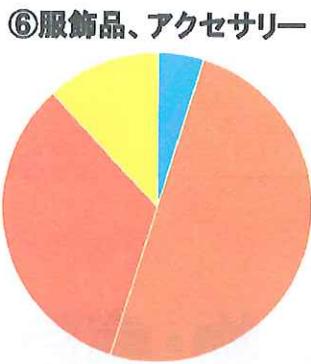
→日用品は岩内町で済ませる人がほとんどである。

51

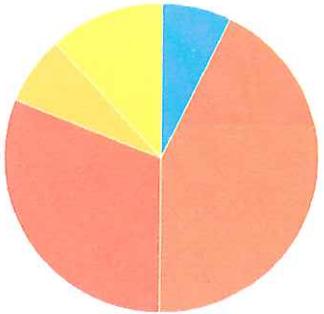
30代 A.買い物・病院(2)



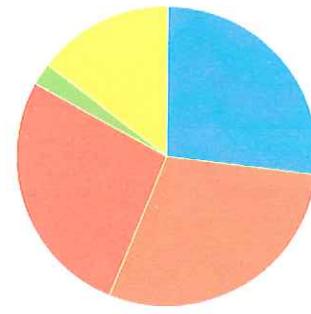
【Q. 主な買い物先は?】



⑦家電



⑧文具・書籍



- 岩内派
- 共和派
- 俱知安派
- 余市派
- 小樽派
- 札幌派
- 宅配・通販派

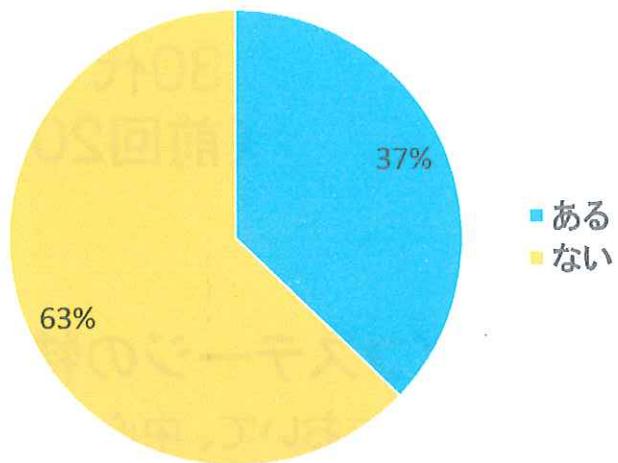
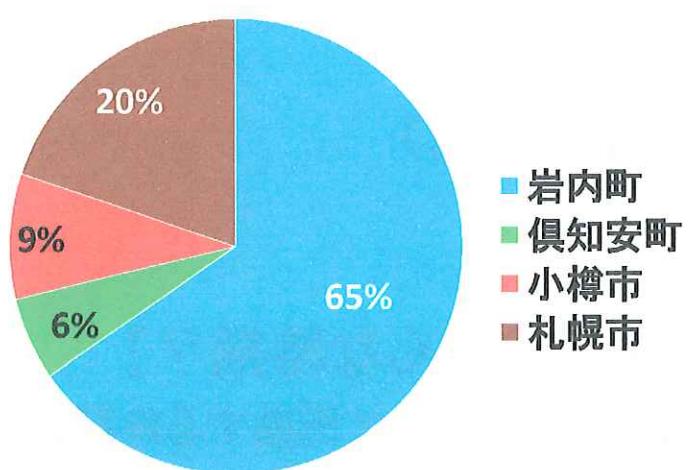
→文具・書籍以外は岩内町外での買い物がほとんどである。

52

30代 A.買い物・病院(3)

【Q. 病院に通院する場合どこに行きますか?】

【Q. 日常の買い物において困っていることはありますか?】



→岩内町がほとんどだが、札幌市を中心^に、町外へ通院する人もいる。

→3人に1人は「困っていることがある」。

53

30代 A.買い物・病院 まとめ

- 日用品は岩内町内で済ませる人がほとんどだが、衣料品・服飾品・家電は町外に依存していると言える。
- 通院先は半数が岩内町だが、札幌市を中心に、町外へ通院する人もいる。
- 「困っていることはない」という人がほとんど。
その一方で「困っていることがある」人は「外出が困難」、「徒歩圏に店がない」と回答。

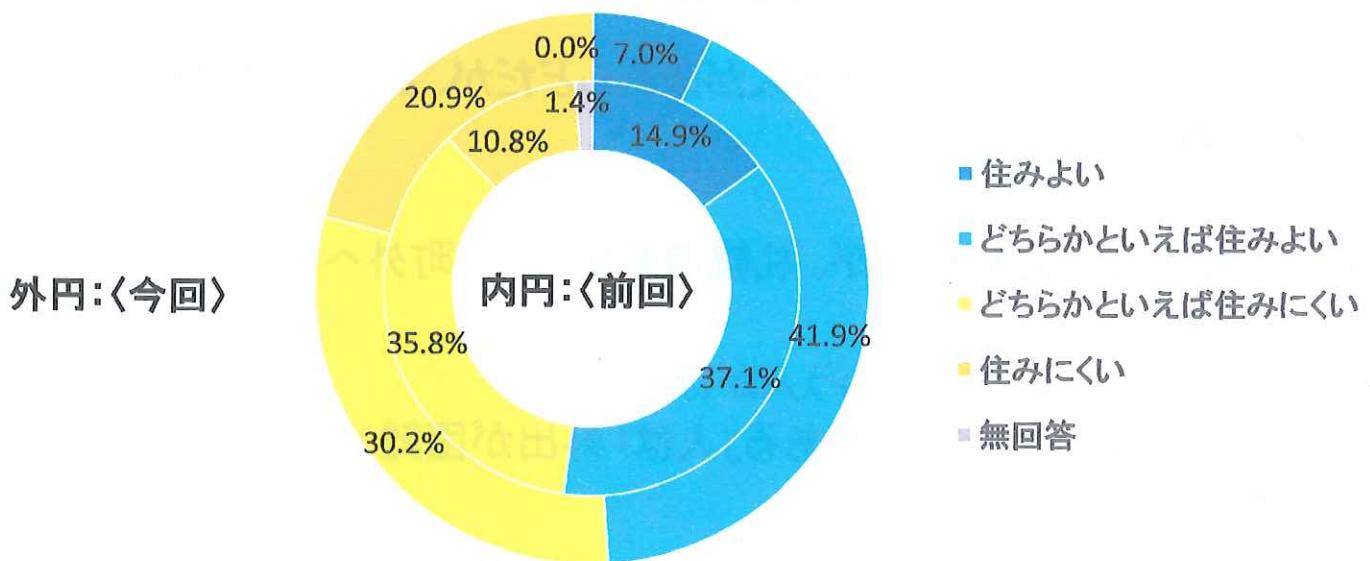
→一部町外に頼る部分もあるが、
買い物・通院どちらも概ね町内で満足しているようだ。

30代 コーホート分析 (前回20代、今回30代)

【ライフステージの特徴 30代はどんな時期?】

社会や家庭において、中心的な役割を担い、人として円熟する時期。
仕事と家庭の両立の問題といった悩みが挙げられる。

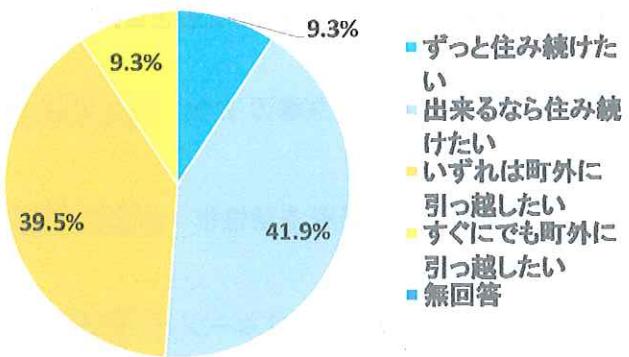
30代 B.住みやすさ



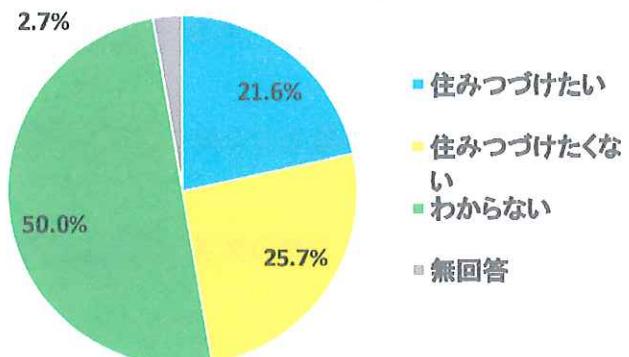
住み良いサイドが7.9%減少し、住みにくいサイドが10.1%増加。

30代 C.居住継続の意向(1)

〈今回〉岩内町に住み続けたいですか？



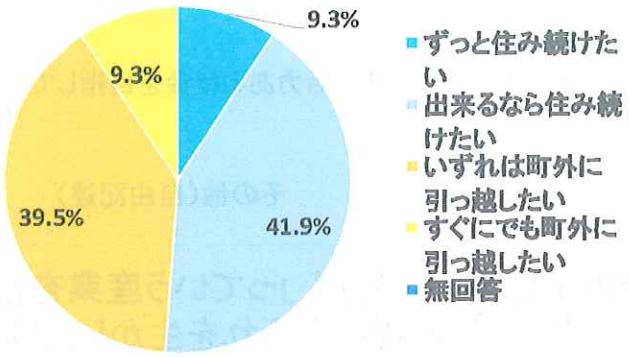
〈前回〉岩内町に今後も住み続けたいと思いますか？【参考】



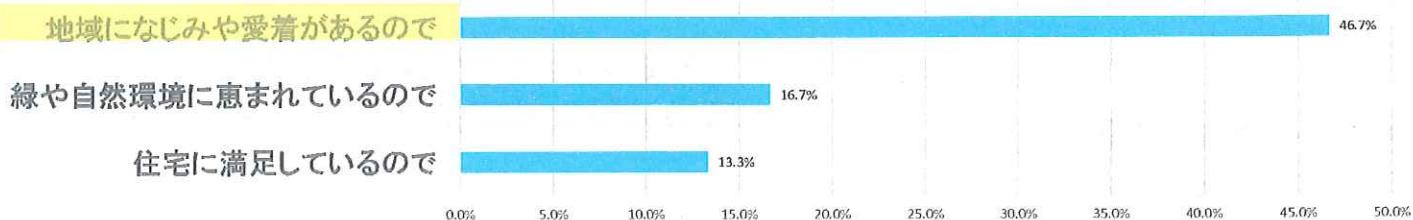
57

30代 C.居住継続の意向(2)

〈今回〉岩内町に住み続けたいですか？



〈今回〉住み続けたい理由(上位3項目)

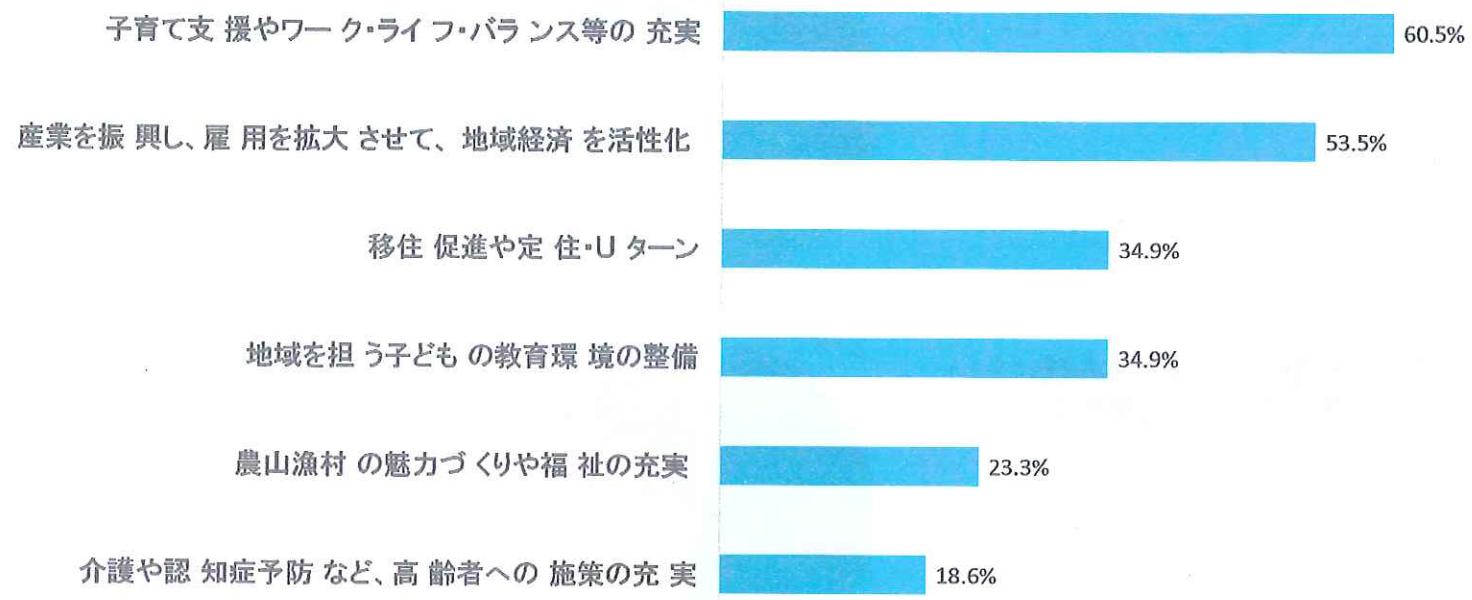


→「住み続けたい」人、「町外に引っ越したい」人がほぼ半数ずつおり、住み続けたい理由としては「地域への愛着」を上げる人が多い。

58

30代 D.今後取り組むべきこと(1)

〈今回〉問3-4. 岩内町の人口減少を克服し、活力ある社会を目指して、今後取り組むべきことは何だと思いますか？



59

30代 D.今後取り組むべきこと(2)

〈今回〉問3-4. 岩内町の人口減少を克服し、活力ある社会を目指して、今後取り組むべきことは何だと思いますか？

その他(自由記述)

岩内町は「これだね！」っていう産業を作る
地域特産の振り出しとそれを生かした観光産業を生み出すべき。

立派なプールを通年使用し、
スイミングスクールに力を
入れて欲しい
地元や、大都市ではない自然の
多い環境で子育てしたい



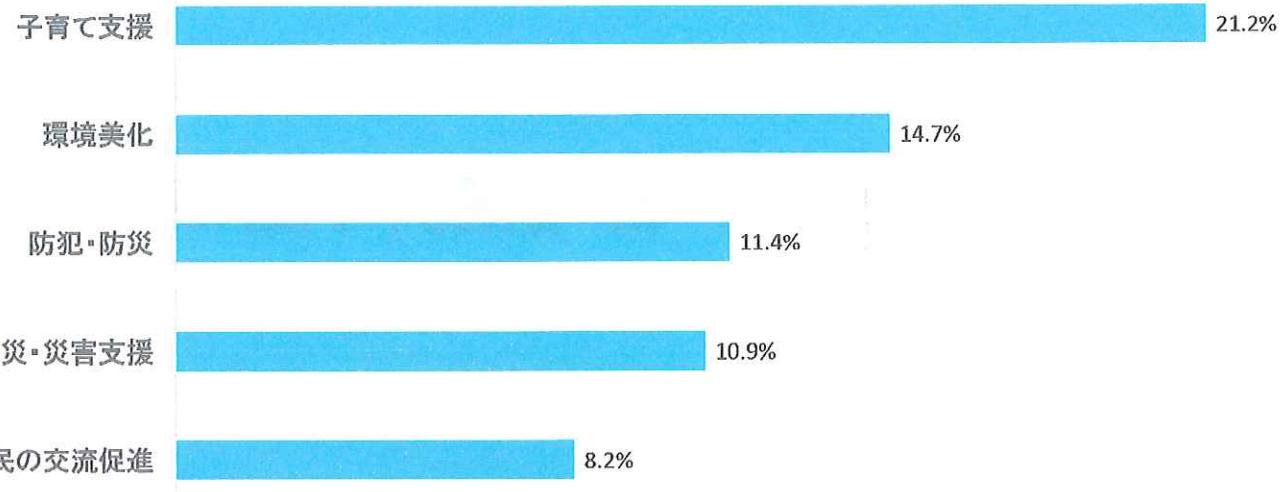
札幌並みの大きな病院医療体制の充実
医療分野に不安を感じない人はいないのでは

道の駅を目的に来町される
ような魅力ある道の駅にする
たとえば、黒松内のピザ
のように目玉商品の発売。

60

30代 D.今後取り組むべきこと(3)

〈前回〉問21. 住民と行政による「協働のまちづくり」を進めるうえで、地域の方たちが協力して取り組んでいくことが必要な事はどんなことだと思いますか？



⇒子育て支援は依然高いが、現在は産業振興による地域経済の活性化、移住促進、定住・Uターン、子どもの教育環境の整備が必要だと考えているようだ。

61

30代 住みやすさ、居住継続の意向、今後取り組むべきこと まとめ

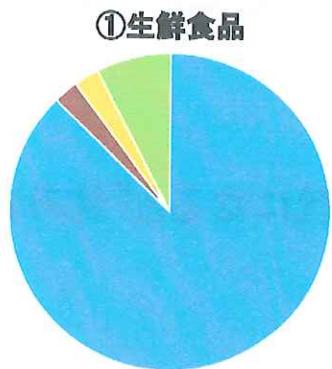
- ・住みやすさが7.9%減少し、住みにくさが10.1%増加。
- ・20代のとき「わからない」との回答は半数を占めていたが、30代になると「住み続けたい」、「町外に引っ越したい」で半数ずつとなっている。
- ・住み続けたい理由として「**地域へのなじみや愛着**」が強い
- ・「子育て支援」への要望は20代と変わらず。**30代になって雇用や産業の充実にも関心が向いている。**

→住みにくさを感じている一方で、雇用、産業の充実に対する関心が高まっている。

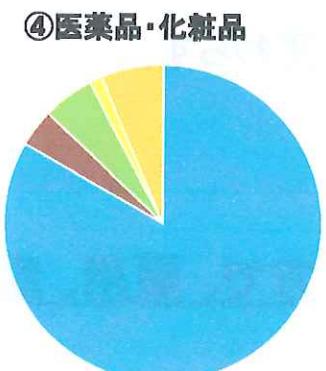
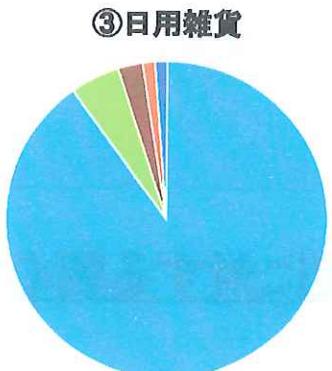
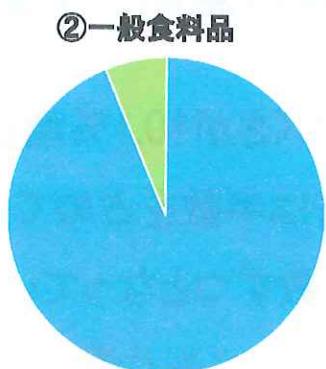
62

40代 A.買い物・病院(今回のみ)

40代 A.買い物・病院(1)



【Q. 主な買い物先は?】

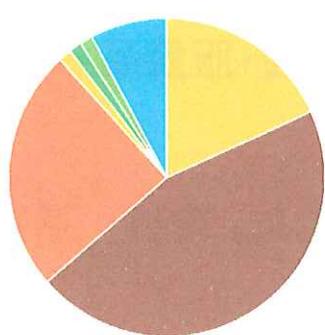


- 岩内派
- 共和派
- 俱知安派
- 余市派
- 小樽派
- 札幌派
- 宅配・通販派

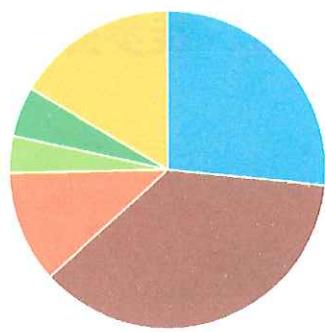
→日用品は岩内町で済ませる人がほとんどである。

40代 A.買い物・病院(2)

⑤衣料品

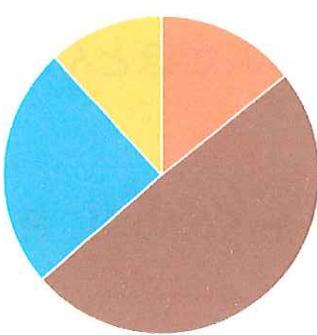


⑦家電

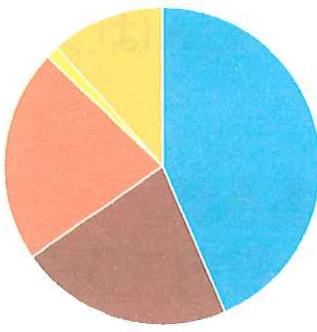


【Q. 主な買い物先は?】

⑥服飾品、アクセサリー



⑧文具・書籍



■ 岩内派

■ 共和派

■ 倶知安派

■ 余市派

■ 小樽派

■ 札幌派

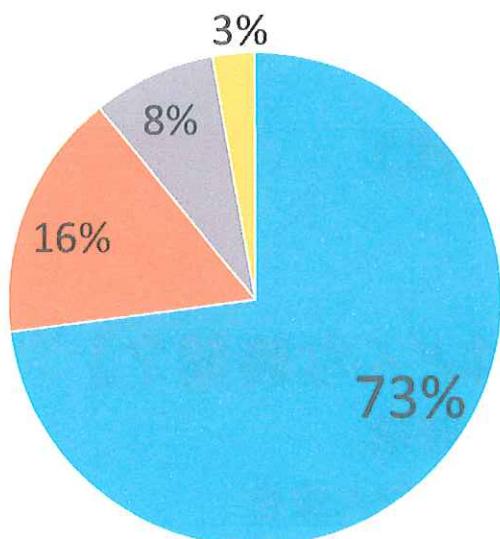
■ 宅配・通販派

→ 岩内町外での買い物が
ほとんどである。

65

40代 A.買い物・病院(3)

【Q. 病院に通院する場合どこに行きますか?】 【Q. 日常の買い物において困っていることはありますか?】

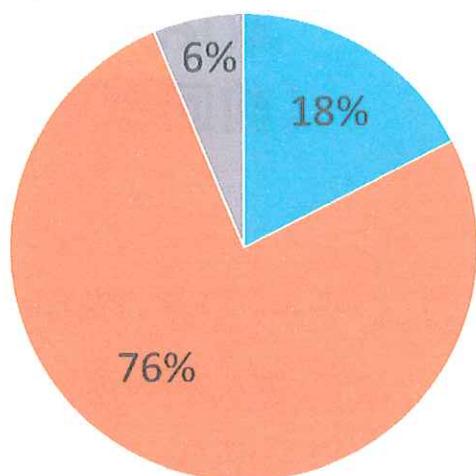


■ 岩内町

■ 札幌市

■ 小樽市

■ その他



■ 困っていることがある
■ 困っていないことはない
■ 無回答

→ 岩内町がほとんどだが、札幌市
を中心に町外へ通院する人もいる。

→ 5人に1人は
「困っていることがある」。

66

40代 A. 買い物・病院 まとめ

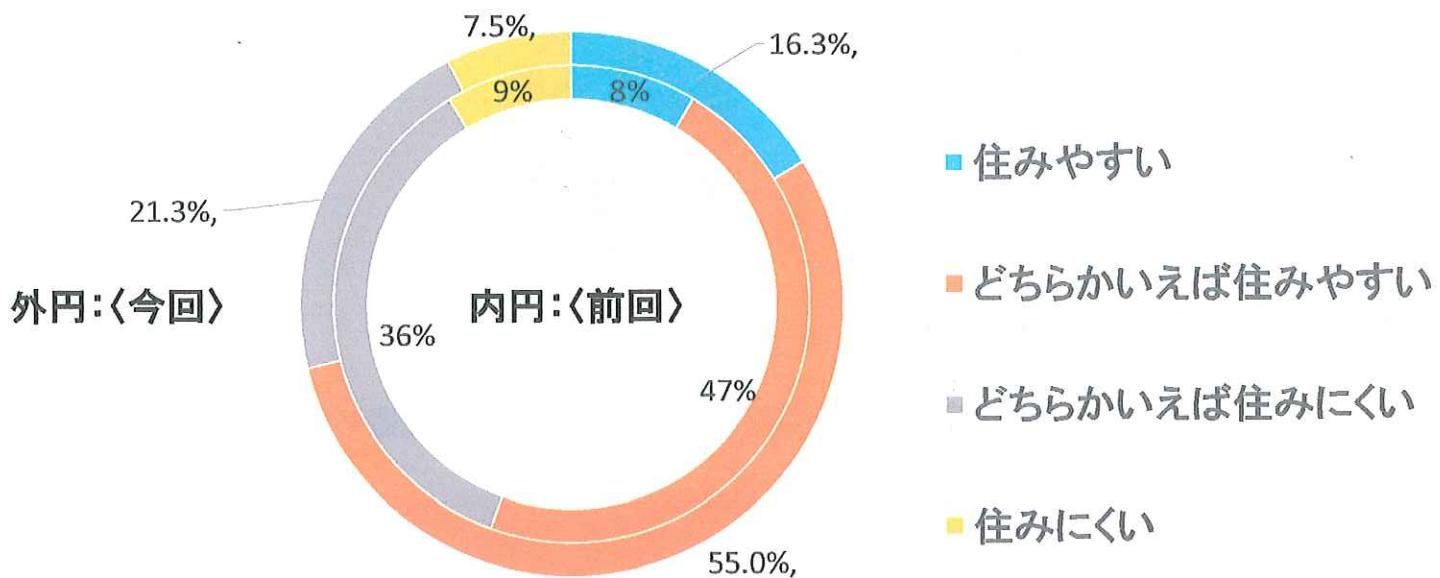
- ・日用品は岩内町内で済ませる人がほとんどだが、衣料品・服飾品・家電は町外に依存していると言える。
- ・通院先は岩内町が半数以上を占めるが、札幌市を中心に、町外へ通院する人もいる。
- ・「困っていることはない」という人がほとんど。
その一方で「困っていることがある」人は「交通の便が悪い」、「徒歩圏に店がない」と回答。

→一部町外に頼る部分もあるが、
買い物・通院どちらも概ね町内で満足しているようだ。

40代 コーホート分析 (前回30代、今回40代)

【ライフステージの特徴 40代はどんな時期?】
人生の折り返し地点を感じる時期。
今だけではなく将来においても自分の人生を
もっと充実させたいと考えるようになる。

40代 B.住みやすさ

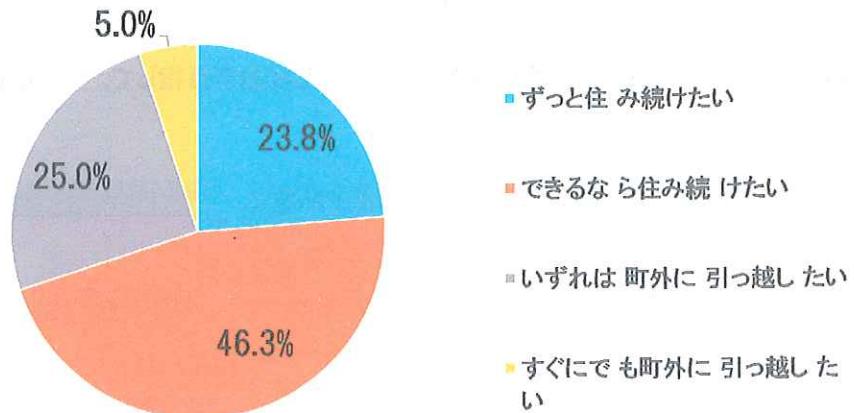


住みやすいサイドが16.3%増加し、住みにくいサイドが16.2%減少。

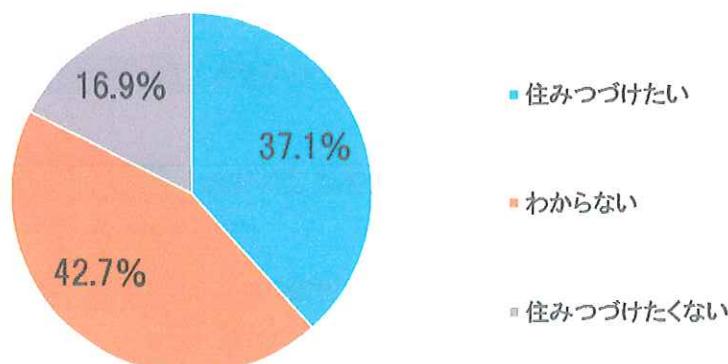
69

40代 C.居住継続の意向(1)

〈今回〉岩内町に住み続けたいですか？



〈前回〉岩内町に今後も住み続けたいと思いますか？【参考】



70

40代 C.居住継続の意向(2)

〈今回〉岩内町に住み続けたいですか？



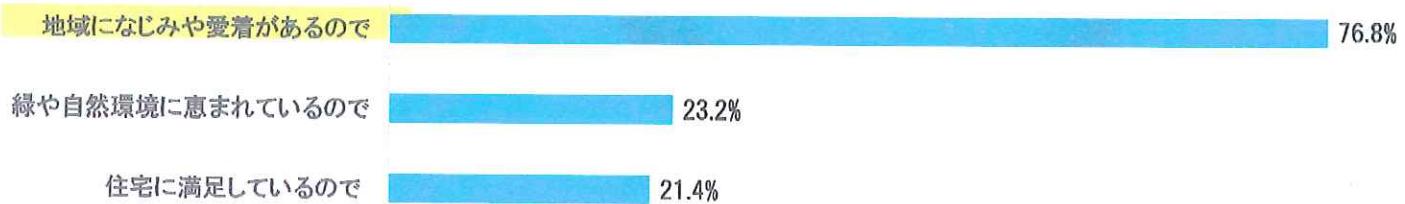
■ ずっと住み続けたい

■ できるなら住み続けたい

■ いずれは町外に引っ越したい

■ むすびで町外に引っ越したい

〈今回〉住み続けたい理由(上位3項目)

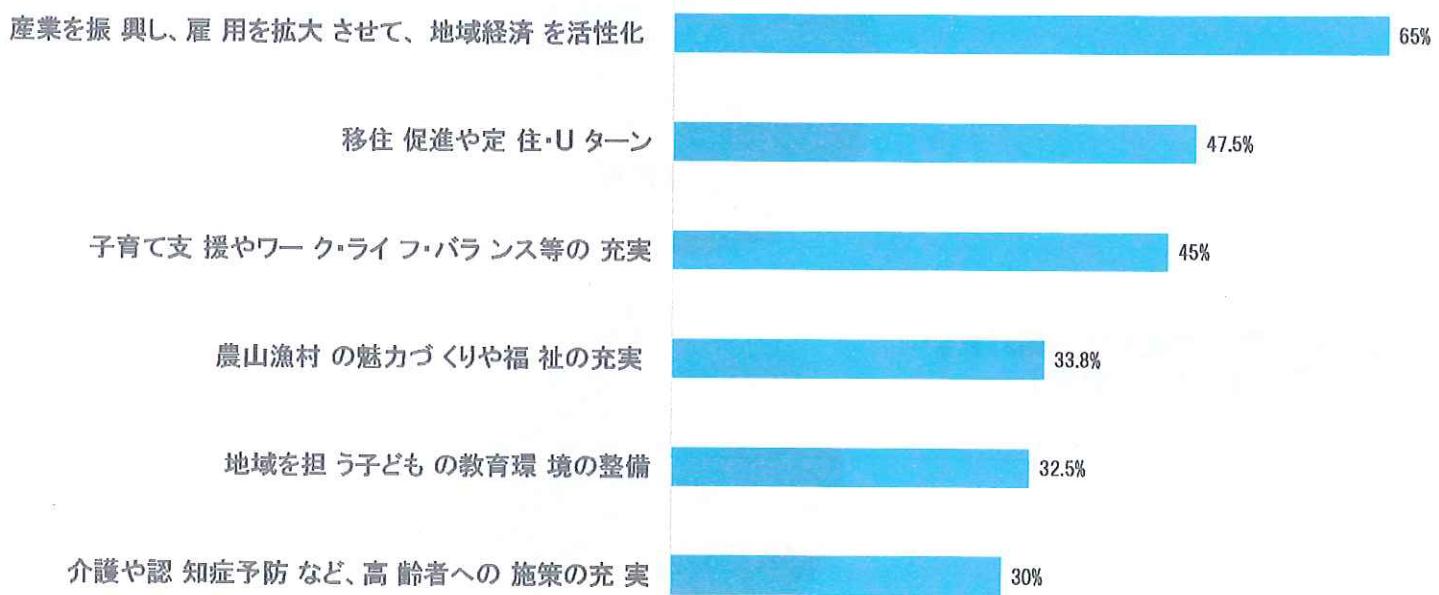


→「住み続けたい」人は多く、理由として「地域への愛着」を上げる人が多い。

71

40代 D.今後取り組むべきこと(1)

〈今回〉問3-4. 岩内町の人口減少を克服し、活力ある社会を目指して、今後取り組むべきことは何だと思いますか？



72

40代 D.今後取り組むべきこと(2)

〈今回〉問3-4. 岩内町の人口減少を克服し、活力ある社会を目指して、今後取り組むべきことは何だと思いますか？

その他(自由記述)

若い世代が安心して働ける環境の提供・整備

高齢者が働く環境づくり

子どもの医療費を無料にする。名医や医療機具など設備をしっかりする。

目立った産業がないので、働く場所が増えなければ若い世代は流出する。若者が希望を持って働く場を増やしてほしい。

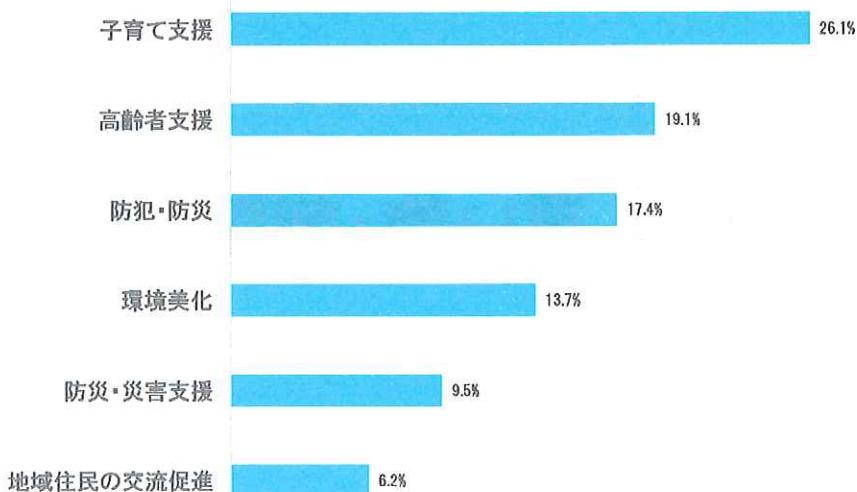


生活の基本となる衣食住に関する商業の誘致。

73

40代 D.今後取り組むべきこと(3)

〈前回〉問21. 住民と行政による「協働のまちづくり」を進めるうえで、地域の方たちが協力して取り組んでいくことが必要な事はどんなんだと思いますか？



子育て支援は依然高いが、現在は産業振興による地域経済の活性化、移住促進や定住・Uターンが必要だと考えているようだ。74

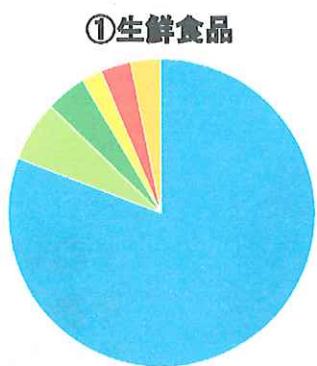
40代 住みやすさ、居住継続の意向、今後取り組むべきこと まとめ

- ・**住みやすいサイドが16.3%増加し、住みにくいサイドが16.2%減少。**
- ・30代のとき「わからない」との回答が約半数を占めていたが、40代になって「住み続けたい」寄りの考えが70.1%となっている。
- ・住み続けたい理由として**「地域へのなじみや愛着」**が強い
- ・「子育て支援」への要望は30代と変わらず。**40代になって雇用や産業の充実、移住促進にも関心が向いている。**

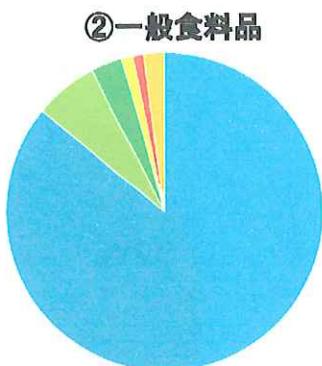
→**雇用や産業の充実、移住促進といった町への関心が高まっている。**

50代 A. 買い物・病院(今回のみ)

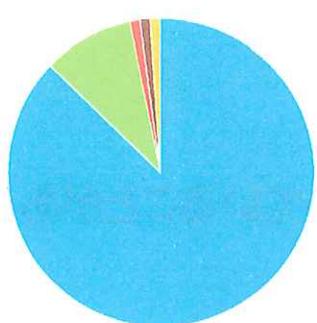
50代 A.買い物・病院(1)



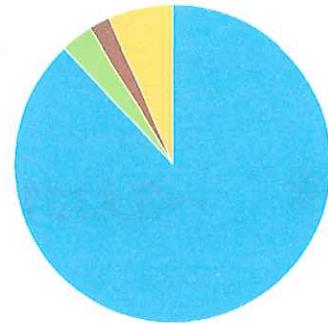
【Q. 主な買い物先は?】



③日用雑貨



④医薬品・化粧品



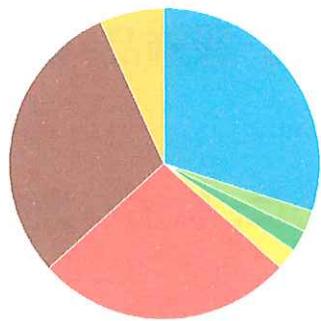
- 岩内派
- 共和派
- 俱知安派
- 余市派
- 小樽派
- 札幌派
- 宅配・通販派

→日用品は岩内町で済ませる人がほとんどである。

77

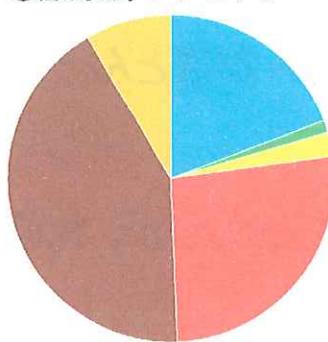
50代 A.買い物・病院(2)

⑤衣料品

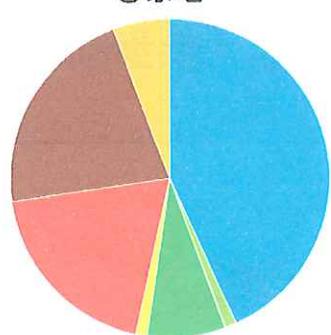


【Q. 主な買い物先は?】

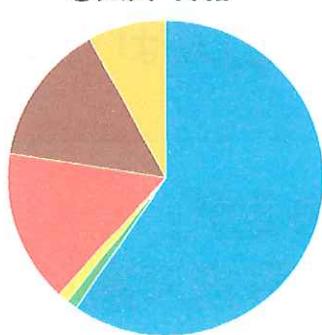
⑥服飾品、アクセサリー



⑦家電



⑧文具・書籍



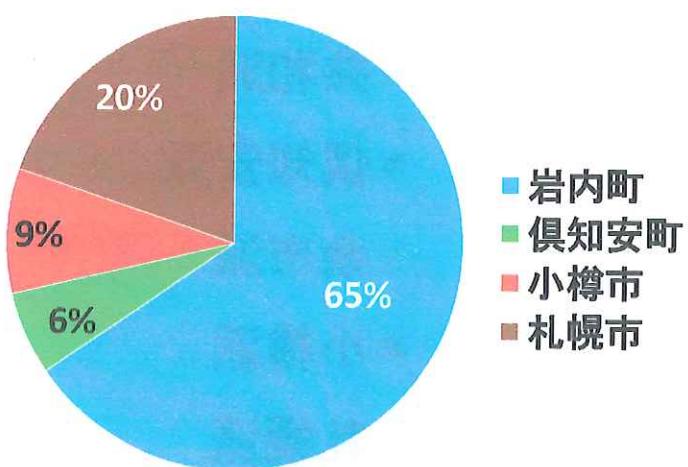
- 岩内派
- 共和派
- 俱知安派
- 余市派
- 小樽派
- 札幌派
- 宅配・通販派

→岩内町外での買い物がほとんどである。

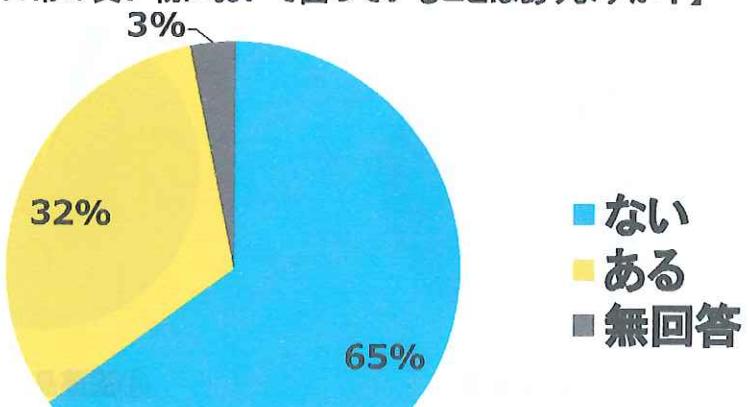
78

50代 A.買い物・病院(3)

【Q. 病院に通院する場合どこに行きますか?】



【Q. 日常の買い物において困っていることはありますか?】



→岩内町がほとんどだが、札幌市を中心に、町外へ通院する人もいる。

→3人に1人は「困っていることがある。」

79

50代 A.買い物・病院 まとめ

- ・日用品は岩内町内で済ませる人がほとんどだが、衣料品・服飾品・家電は町外に依存していると言える。
- ・通院先は岩内町が半数以上を占めるが、札幌市を中心に、町外へ通院する人もいる。
- ・「困っていることはない」という人がほとんど。
その一方で「困っていることがある」人は「交通の便が悪い」、「徒歩圏に店がない」と回答。

→一部町外に頼る部分もあるが、

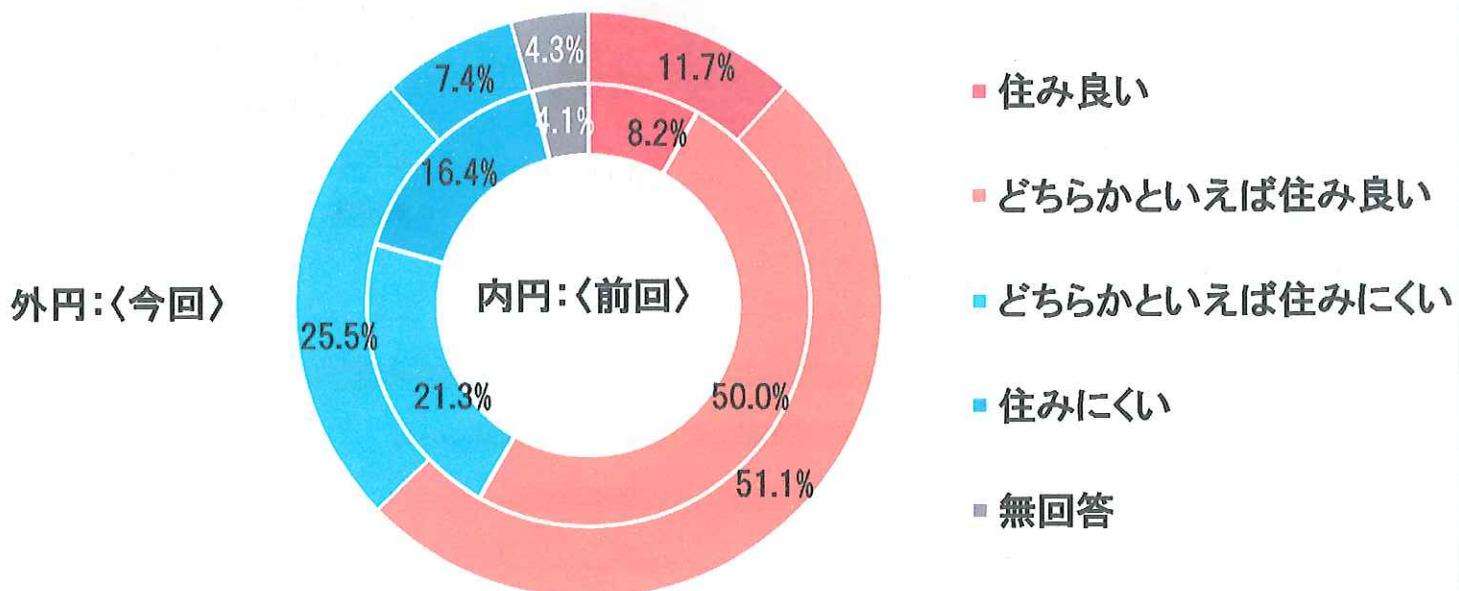
買い物・通院どちらも概ね町内で満足しているようだ。

50代 コーホート分析 (前回40代、今回50代)

【ライフステージの特徴 50代はどんな時期？】

子育てが落ち着き、改めて自分自身と向き合う時期。
体力の衰え、親の介護問題、子どもの進学問題といった悩みが挙げられる。

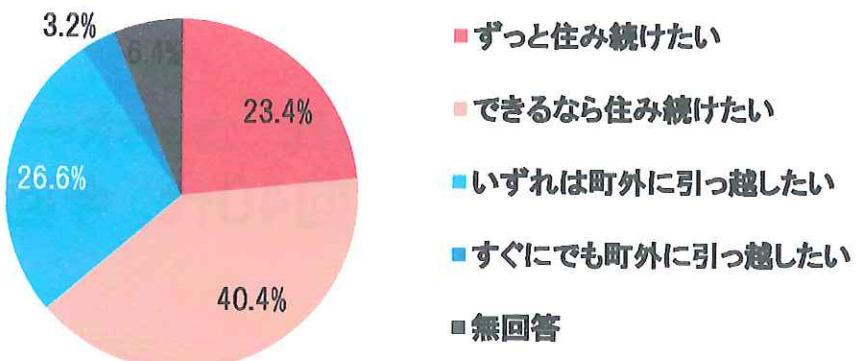
50代 B.住みやすさ



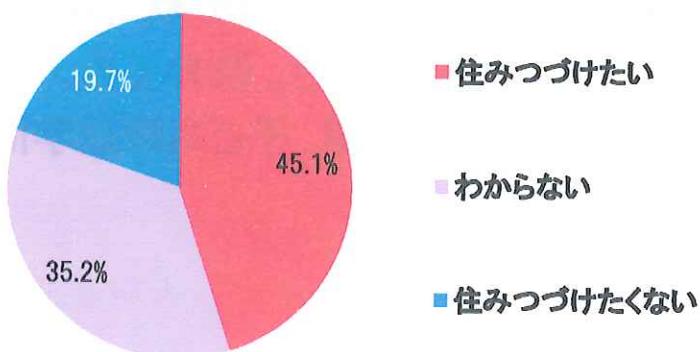
住み良いサイドが4.6%増加し、住みにくいサイドが4.8%減少。

50代 C.居住継続の意向(1)

〈今回〉岩内町に住み続けたいですか？



〈前回〉岩内町に今後も住み続けたい
と思いますか？【参考】



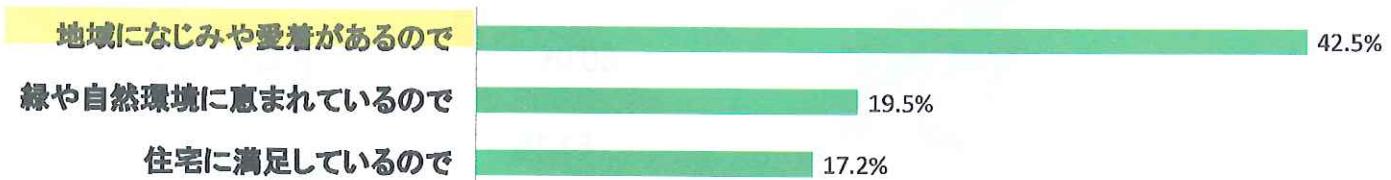
83

50代 C.居住継続の意向(2)

〈今回〉岩内町に住み続けたいですか？



〈今回〉住み続けたい理由(上位3項目)

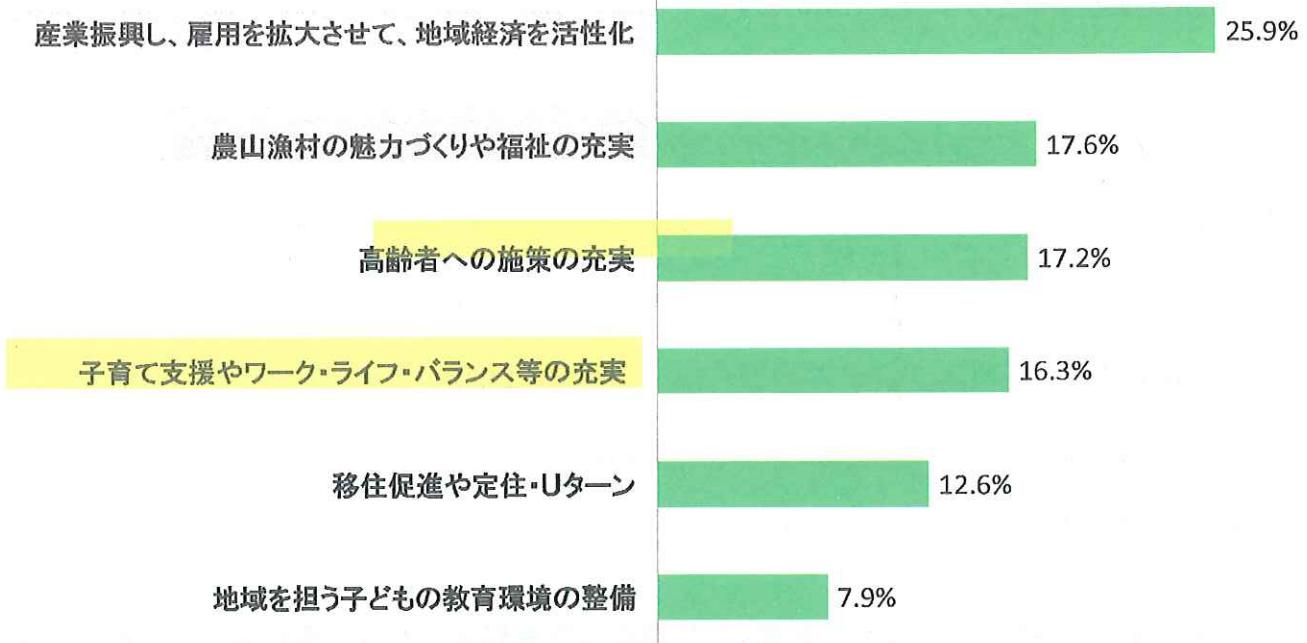


→「住み続けたい」人は多く、理由として「地域への愛着」を上げる人が多い。
一方、ネガティブな理由を持つ人も。

84

50代 D.今後取り組むべきこと(1)

〈今回〉問3-4. 岩内町の人口減少を克服し、活力ある社会を目指して、今後取り組むべきことは何だと思いますか？



85

50代 D.今後取り組むべきこと(2)

〈今回〉問3-4. 岩内町の人口減少を克服し、活力ある社会を目指して、今後取り組むべきことは何だと思いますか？

その他(自由記述)

夏休み、冬休み規制の為の援助金を出す。

漁業を強くして漁師町になるように。

就職先がない事。一年通して安定した会社
が少ない。若者の将来性がまったく無い。

冬でも雪対策があり安心して
暮らすこと。

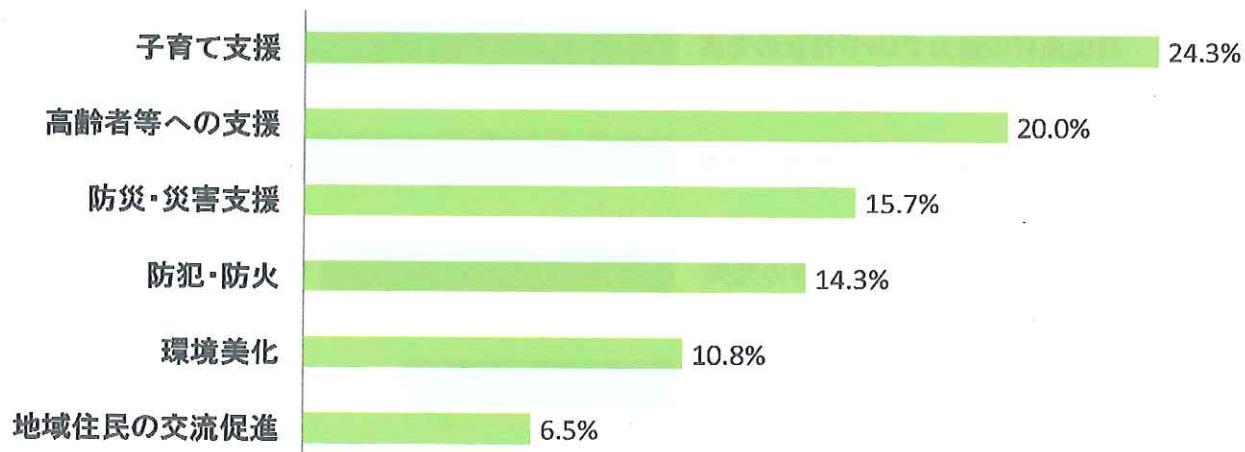


地域医療の安定

86

50代 D.今後取り組むべきこと(3)

〈前回〉問21. 住民と行政による「協働のまちづくり」を進めるうえで、地域の方たちが協力して取り組んでいくことが必要な事はどんなことだと思いますか？



高齢者等への支援・子育て支援は依然高いが、現在は産業振興による地域経済の活性化が必要だと考えているようだ。漁業に対する期待も。⁸⁷

50代 住みやすさ、居住継続の意向、今後取り組むべきこと まとめ

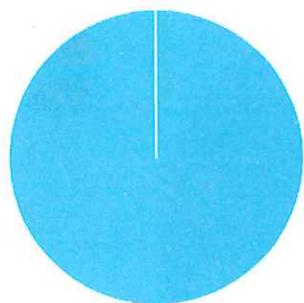
- ・住みやすさが4.6%増加し、住みにくさが4.8%減少。
- ・40代のとき「わからない」との回答が多いが「住み続けたい」寄りの考えは63.8%。
- ・住み続けたい理由として「地域へのなじみや愛着」が強い一方、「仕方ない」というネガティブな考えも。
- ・「子育て支援」「高齢者への支援」への要望は40代と変わらず。50代になって雇用や産業の充実にも関心が向いている。漁業に対する期待の声もある。

→改めて自分と向き合うと同時に、町への関心が高まっている。

60代 A.買い物・病院(今回のみ)

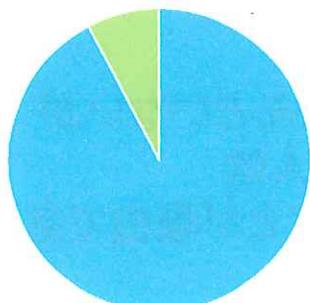
60代 A.買い物・病院(1)

①生鮮食品



■ 岩内町

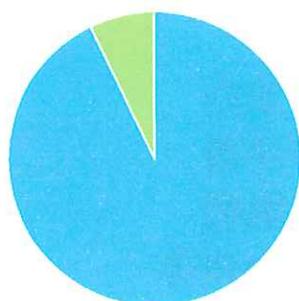
③日用雑貨



■ 岩内町
■ 共和町

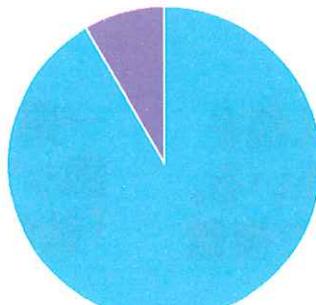
【Q. 主な買い物先は?】

②一般食料品



■ 岩内町
■ 共和町

④医薬品・化粧品

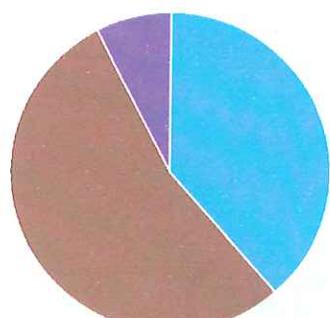


■ 岩内町
■ 宅配・通販

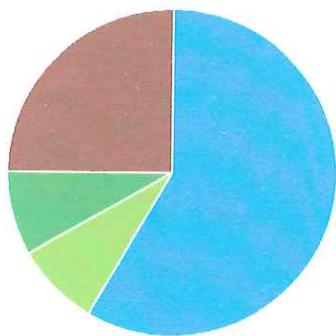
→日用品は、岩内町内で
済ませる人がほとんどである。

60代 A.買い物・病院(2)

④衣料品



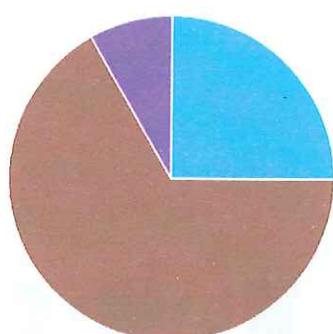
⑥家電



【Q. 主な買い物先は?】

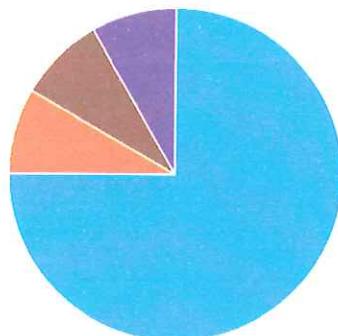
⑥服飾品、アクセサリー

- 岩内町
- 札幌市
- 宅配・通販



⑧文具・書籍

- 岩内町
- 小樽市
- 札幌市
- 通販・宅配

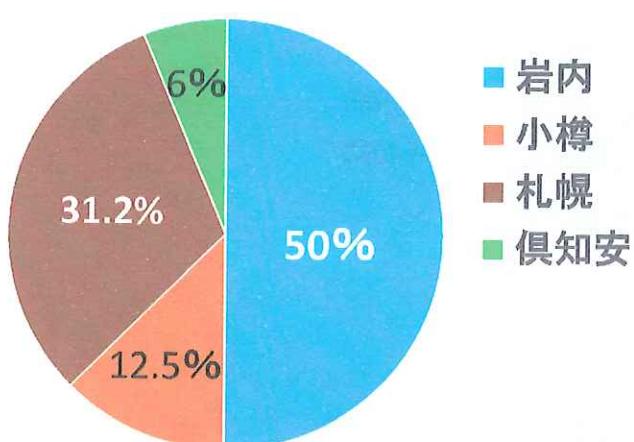


→衣料品、服飾品・アクセサリーは町外、家電、文具・書籍は町内で購入する人が多い。

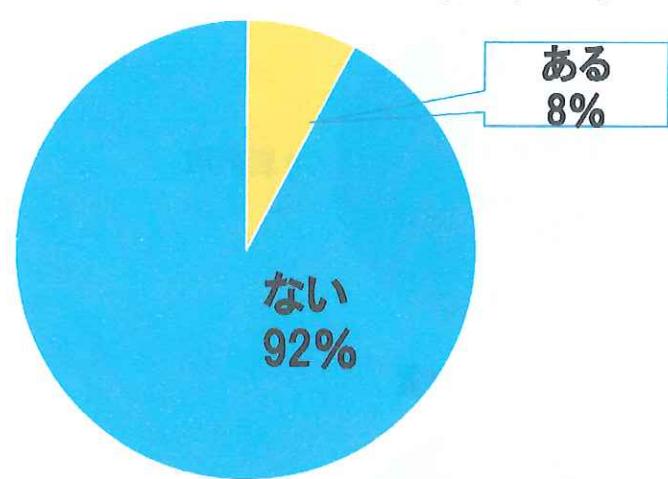
60代 A.買い物・病院(3)

【Q. 病院に通院する場合どこに行きますか?】

【Q. 日常の買い物において困っていることはありますか?】



→半分は岩内町内だが、札幌を中心いて町外へ通院する人もいる。また、通院先が町内・町外で複数ある人も。



→困っている人はほとんどいないが、困っていることがある人は、「徒歩圏に店がない」ことが理由である。

60代 A. 買い物・病院 まとめ

- ・衣料品・服飾品、アクセサリーは町外で購入する人が多いが、ほとんどの買い物は町内で済ませているようである。
- ・通院先は半数が岩内町だが、町内と町外で複数ある人もいる。
- ・「困っていることはない」という人がほとんど。
しかし「困っていることがある」人は「徒歩圏に店がない」と回答。

→一部町外に頼る部分もあるが、
買い物・通院どちらも概ね町内で満足しているようだ。

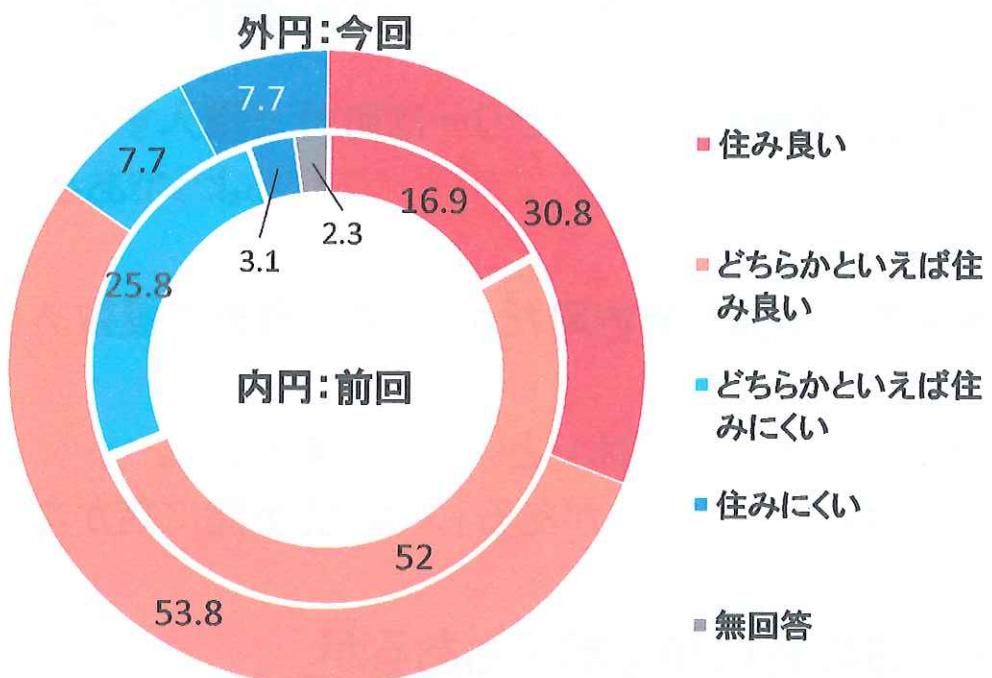
60代 コーホート分析 (前回50代、今回60代)

【ライフステージの特徴 60代はどんな時期?】

定年を迎えてセカンドライフを始める時期。

退職金や公的年金の受給など、自身を取り巻くお金の流れも大きく変わる。
自身の健康や老後の介護の問題といった悩みが挙げられる。

60代 B.住みやすさ



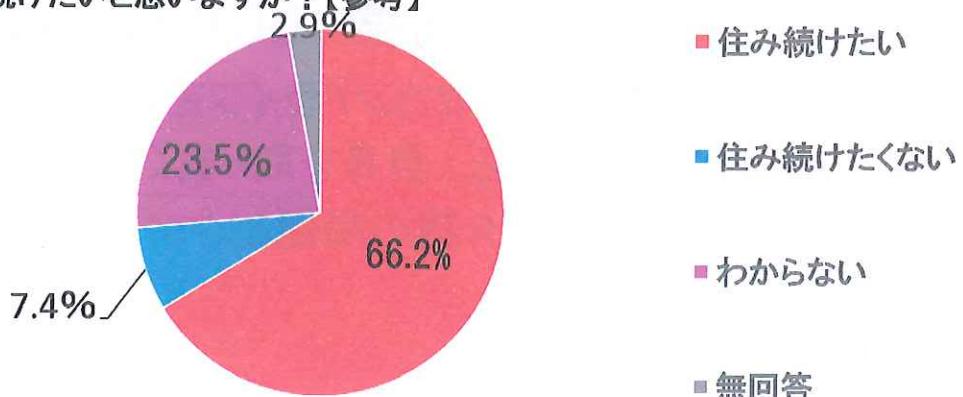
→住みやすいサイドが15.7%増加し、住みにくいサイドが13.5%減少。

60代 C.居住継続の意向(1)

〈今回〉岩内町に住み続けたいですか？



〈前回〉岩内町に今後も住み続けたいと思いますか？【参考】

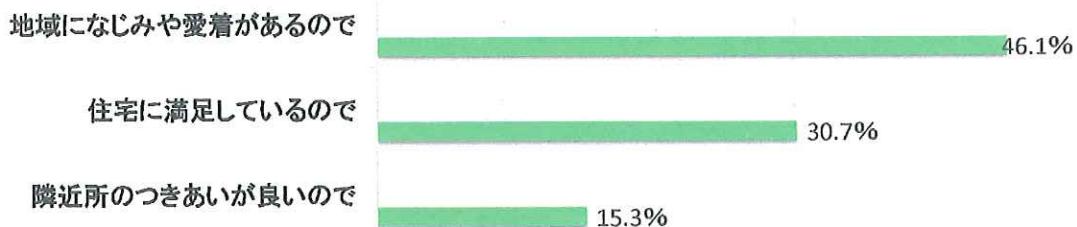


60代 C.居住継続の意向(2)

〈今回〉岩内町に住み続けたいですか？



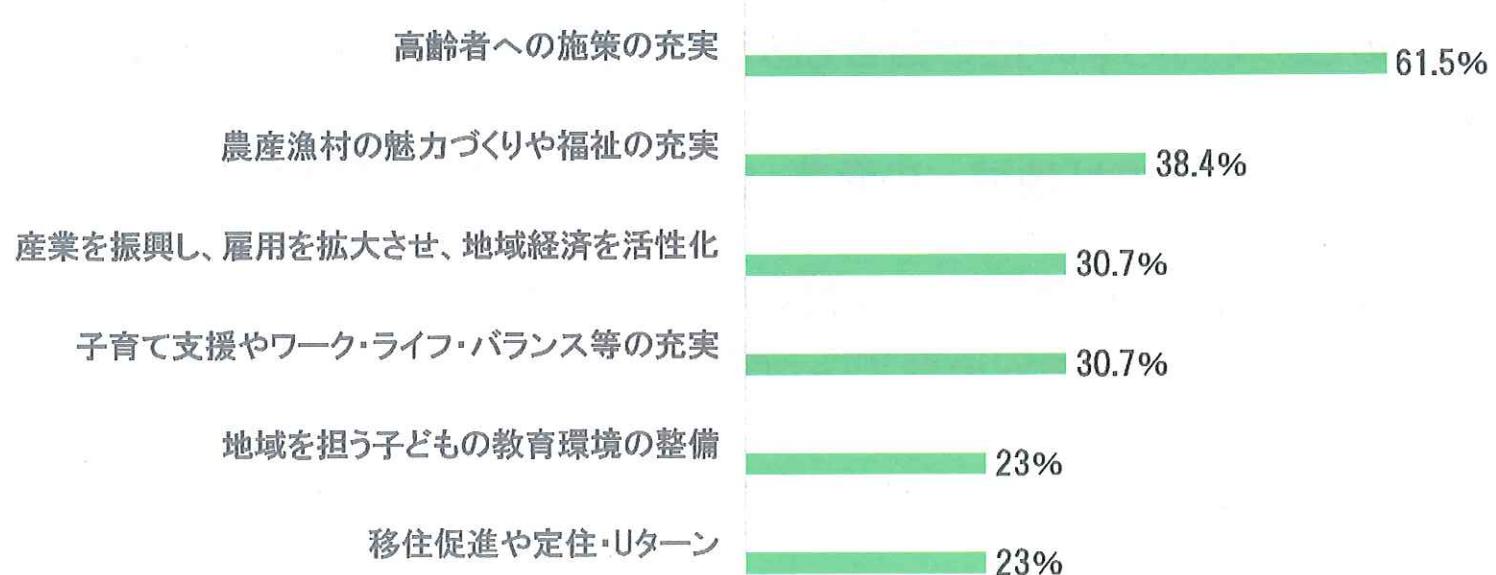
〈今回〉住み続けたい理由(上位3項目)



→「地域への愛着」や「住宅に満足」などが多く挙げられており、町の生活に満足している人が多い。

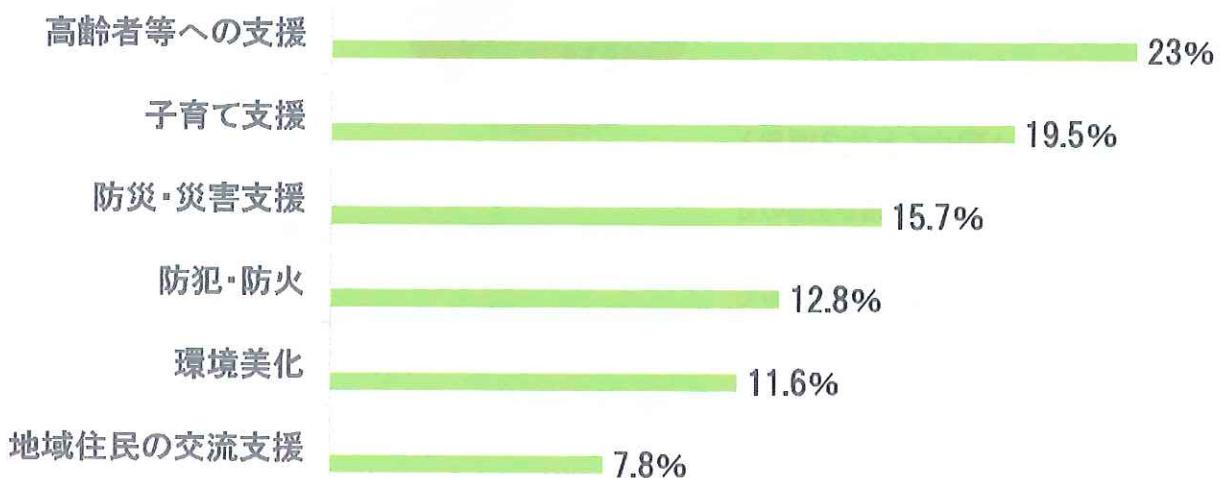
60代 D.今後取り組むべきこと(1)

〈今回〉問3-4. 岩内町の人口減少を克服し、活力ある社会を目指して、今後取り組むべきことは何だと思いますか？



60代 D.今後取り組むべきこと(2)

〈前回〉問21. 住民と行政による「協働のまちづくり」を進めるうえで、地域の方たちが協力して取り組んでいくことが必要な事はどんなことだと思いますか？



高齢者等への支援は依然として高い中、
現在は、福祉の充実や、産業振興・雇用拡大による地域経済の活性化が必要だと感じている人が多いようだ。

60代 住みやすさ、居住継続の意向、今後取り組むべきこと まとめ

- ・住みやすいサイドが15.7%増加、住みにくいサイドが13.7%減少
- ・50代のとき「わからない」との回答もあるが、「住み続けたい」寄りの人は77%。
- ・住み続けたい理由は「地域への愛着」や「住宅への満足」、「隣近所のつきあいが良い」が多い。今の生活に満足している人が多い。
- ・高齢者への支援の必要性は10年前から変わらず高い。
60代になって、地域経済の活性化にも関心が向いている。

→現在の生活に満足を感じている中で、活力ある町づくりへの関心が高まっている。